

令和2年度（2020年度）

研究紀要

深く考え 心豊かな たくましい子の育成
～おもいを伝え、ともに学び、高めあおう～

豊中市立桜塚小学校

<目次>

はじめに	1
I. 本年度の研究の構想	
研究課題・研究組織・研究推進委員会	2
今年度の成果と課題	3
次年度に向けて	4、5
II. 人権教育研究委員会	
研究主題	6
研究主題設定の主旨	6
取り組み	7
人権教育の実践教材年間計画と学年目標	8
平和教育週間	9
集団作り研修会、人権学習会、校区人権の取り組み	9
命の日の取り組み	9
成果と課題	10
重点テーマ「平和教育」各学年の授業実践報告	11
平和教育学学年の1年間の取り組み	12～14
性教育指導計画案	15
性教育各学年の授業実践報告	16～18
III. 外国語・総合教育研究委員会	
研究主題	19
研究主題設定の主旨および活動内容	19
外国語の取り組み	20
英語タイムこんねんどの学年ごとの実践報告	21
来年度に向けて	22
外国語科学習指導案	23～28
生活科・総合的な学習の各学年の取り組み	29～31
IV. 道徳教育研究委員会	
研究主題、研究主題設定の趣旨	32
活動内容	32
各学年の実践	33～38
研究授業及び事後検討会	39～42
研究の成果と課題、来年度に向けて	42
道徳教育全体計画	43
V. 教科教育研究委員会	
研究主題	44
研究主題設定の主旨	44
研究のまとめ	44
研究の内容と方法について	45～46
年間研修計画、来年度にむけて、役割分担	47～48
学年別研究のまとめ	49
深まり度	50～51
国語科学習指導案（2年生）	52～55
あとがき	56

はじめに

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発出され、二ヶ月にわたる臨時休校からのスタートとなった今年度であった。まず学校生活をいかに取り戻していくかが課題となった。6月から分散登校を始め、ようやく半ばから通常授業を再開することができた。各行事等も縮小し、工夫をしながら実施した。この状況において、研究のあり方も検討課題となった。例年夏季休業中に研修会を持っていたが、夏季休業が短縮される中、講師を招聘して一堂に会する研修会を開催することができなかった。しかしながら、研究授業も回数を減らし、試行錯誤しながら、3本の研究授業を持つことができた。

こうした状況であったが、今年度も引き続き、研究目標を「人間尊重の精神を基盤として、心身ともに健康で、豊かな人間性と確かな学力を身につけさせる。」として、研究テーマを「深く考え、心豊かな、たくましい子の育成」とし、サブテーマを「おもいを伝え、ともに学び、高めあおう」と設定した。研究組織としては、「人権教育研究委員会」「教科教育研究委員会」「道徳教育研究委員会」「外国語総合教育研究委員会」の四つの部会に分かれて、それぞれに主題を設定して研究を推進した。

今年度、研究体制を見直す中で、児童の実態に基づいた研究主題に改めることを検討した。次年度は、『『考える・伝える・認め合う』～自分の思いや考えを持ち、表現できる子に～』と設定することとなった。また、GIGAスクール構想が前倒しとなり、一人一台のタブレットが配備されることとなった。現場では急速に導入されることに戸惑いがあるが、配備された以上、タブレット端末をいかに有効に活用するかが、課題となる。次年度はそれに対応できる体制を構築して行く必要もある。

最後になりましたが、今日まで本校教育にご指導いただきました皆様に深く感謝し、お礼を申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年（2021年）3月

校長 原野 裕章

本年度の研究の構想

1. 研究課題

(1) 学校教育目標

① 教育の基調

人間尊重の精神を基盤とした民主的で創造性にとんだ心身ともに健康で、命の大切さがわかる人間性豊かな児童を育成する。

② 具体的目標

- 深く考える子・・・人の話や意見をしっかりと聞く
筋道を立てながら自分の意見をまとめ、書いたり発表したりする
互いの考えを深め合い進んで調べようとする
- 心豊かな子・・・自分の良さ、人の良さがわかる
感動する心をもつ
豊かに表現する
- たくましい子・・・からだを鍛え、健康に留意する
困難を乗り越えられる力を持つ
あきらめず最後までやりとげる

(2) 学校研究目標

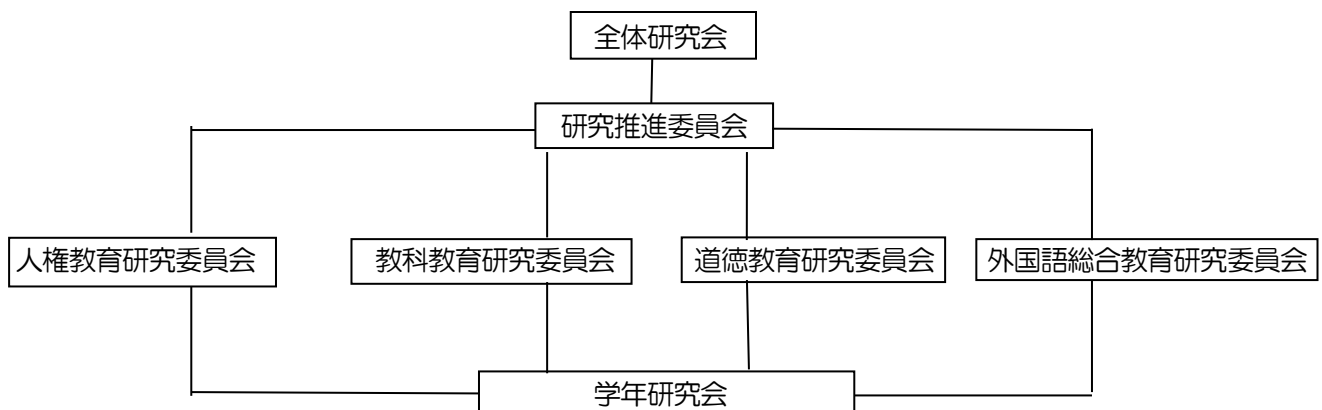
人間尊重の精神を基盤として、心身ともに健康で、豊かな人間性と確かな学力を身につけさせる。

○今年度の研究主題

「深く考え、心豊かな、たくましい子の育成」

～ おもいを伝え、ともに学び、高めあおう ～

2. 研究組織



* 毎月の第1回目の学年の日を学年研として、学年所属全員参加とする。

* 低中高の合同学年会を学期に1度取り入れる。

3. 研究推進委員会

(1) 役割 企画・連絡・調整を行い、研究を推進する。

(2) 構成 校長、教頭、各委員会代表4名、事務で構成する。

(3) 分担 代表・年間計画—赤松 研修案内—神崎 市教研—高柳
予算 —神崎 研究紀要—西川、丹下、高柳

4. 今年度の成果と課題

今年度も

「深く考え、心豊かな、たくましい子の育成」～ おもいを伝え、ともに学び、高めあおう ～
という研究主題のもと、4つの委員会に別れて研究を行ってきた。コロナ禍において、取り組めなかったこともあり例年とは違った形で研究を進めてきたが、研究授業の方法など新しい取り組みの形も発見することができた。また道徳、教科教育、外国語・総合の各部会で一回ずつ研究授業と実践報告を行い、他学年の取り組みに触れそれぞれが日々の指導に活かすことができたと考える。本校の研究主題のもと、各委員会が主題を

教科教育	成果・・・意欲的に学習に取り組む児童が増えてた。 国語科における深い学びについて、深まり表をもとにねらいを設定して授業を行うことができた。
道徳	課題・・・学習の深まり具合や基礎学力の定着における個人差を埋めていく必要がある。 成果・・・児童の考えを深める発問づくりのポイントを整理することができた。 発問だけでなく、児童の考えを深める手立てを各学年で実施することができた。
人権	課題・・・さらに考えを深められるような手立てを今後も研究していく必要がある。 成果・・・平和展でDVDを視聴したことにより、戦争についての理解を深めることができた。 平和展、命の日における子どもたちの思いをワークシートに書きとめ、教師間で共有することができた。 課題・・・重点テーマだけでなく、他のテーマについても実践報告などを行い、確実に取り組めるようにしていきたい。
外国語・総合	成果・・・月2回の英語タイムの実施を継続していることにより、楽しんで英語に親しむことができた。 課題・・・各クラスの英語タイムを実施するにあたり、担任が実施しやすいように考えていく必要がある。

設定し実践した結果、下記のような成果を上げることができた。

長年、教育活動全体を通して指導を行ってきた結果、目指す児童の姿に近づいてきたと考えるので、次年度以降は、目指す児童の姿をより明確にして本校の児童の実態に合った研究を進めていく必要がある。

5. 次年度に向けて

(1) 研究主題について

今年度は、研究主題の変更を検討した。今までの研究主題は、長年変更されておらず、捉え方も様々であった。そこで、より本校の児童の実態に合った具体的な研究主題にすることで、日々の取り組みの目標を明確にする

ことができると考えたためである。

各学年に、「児童につけたい力・児童に不足している力」についてアンケートをとった結果、どの学年においても「自分の意見や考えを表現する力が弱い」ということが明らかになった。このことをもとに各研究部会で検討を行い、本校児童の実態を踏まえ桜塚の目指す児童の姿として、来年度以降の学校研究主題を

「考える・伝える・認め合う」 ～自分の思いや考えを持ち、表現できる

子に～

に設定した。

(2) 外国語・総合研究委員会の組織編成について（案）

「外国語・総合研究委員会」として前年度に引き続き運営を行ってきたが、今年度より3・4年生が外国語活動、5・6年生は外国語として教科化されたことに伴い、より一層の教材研究が必要である。合わせて外国語を実際に指導した経験がある教師が少ないのも現実であり、校内研修等を充実させていく必要も出てきている。

そこで、来年度からは「外国語研究委員会」として独立し、総合や各教科のカリキュラム作成等は研究推進委員会で行っていかないと考える。総合は、人権やいろいろな教科と内容等が重なることも多く、研究推進委員会で他の研究委員会との連携や関わりを考えながら、「総合」としてまとめていくほうがいいのではないかと考えている。

外国語研究委員会・・・外国語科の教材研究 研修などの計画・実施

研究推進委員会・・・研究推進委員会の役割分担の中に、総合担当と年間カリキュラム担当を作る
(総合 担当) 総合のカリキュラムの作成 各教科との連携
(年間カリキュラム 担当) 各学年 各教科の年間カリキュラムの作成

(3) 夏季研修会及び校内研究授業等について

①夏季研修会の持ち方（2019年度決定）

- 4つ行う。
- 7月中（夏季休業中のはじめ）に3つ、8月（2学期の短縮期間中）に1つを行う。
- 4つの研修会のうち、3つは研究委員会で、1つは前年度に希望のあった内容（四部会からの希望や、個人の希望など）とする。ただし、希望の集約、内容の決定については研究推進委員会に一任する。

<2021年度研修会を実施する委員会や内容>

- ・人権教育
- ・外国語
- ・道徳
- ・タブレットの活用の仕方について

●研究委員会以外からの希望がなかった場合、4つとも研究委員会による研修会とする。

●夏季研修会を行う研究委員会の順番

①人権 ⇒ ②外国語・総合 ⇒ ③道徳 ⇒ ④教科教育

(例)

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
毎年希望があった場合	①人権 ②外国語・総合 ③道徳 +希望の内容	④教科教育 ①人権 ②外国語・総合 +希望の内容	③道徳 ④教科教育 ①人権 +希望の内容
希望がない年がある場合	①人権 ②外国語・総合 ③道徳 +希望の内容	④教科教育 ①人権 ②外国語・総合 ③道徳	④教科教育 ①人権 ②外国語・総合 +希望の内容

・4月中には計画し、予算に計上する。

②校内研究授業等について

●低・中・高に分かれて授業を5本行う。(1学年は校区人研)

●研究授業の持ち方については、その時の状況で判断し、実施する。

(ビデオ(撮影したもの)視聴、オンライン参観、模擬授業参観など)

●授業を行う時間 ①水曜日5時間目 ②金曜日5時間目

	2020 年度		2021 年度		2022 年度
低学年	教科(2年) 報告(1年)	➡	低学年 校区人研、教科 中学年 道徳、教科 高学年 外国語、教科	➡	低学年 外国語、教科 中学年 校区人研、教科 高学年 道徳、教科
中学年	道徳(4年) 報告(3年)				
高学年	外国語(6年) 報告(5年)				

<2020 年度の実施状況>

①夏季研修会は行っていない。

②研究授業は低・中・高にわかれ、3本行った。

感染症の状況に関わる実施方法・・・いずれの授業時も、窓を開けて十分に換気を行った上で、

10月は教室実施、ただし教室に入れる教員の数を制限した

1月は普通教室よりも広い多目的教室・図工室にて通常通り実施

人権教育研究委員会

1. 研究主題

- ・一人ひとりの願いを大切にし、互いを認め合える心を育てる。
- ・生命がかげがえのないものであることを知り、生命を大切にすることを育てる。

2. 研究主題設定の主旨

今年度も研究テーマのもと自ら学び考える力や豊かな人間性を培う教育活動を計画的に実施してゆく。活動を通して児童の発達段階に応じた人権尊重の意識を高め、一人一人を大切にしたい指導をしてゆきたい。取り組みとして今年度は、平和教育に重点を置いていきたい。戦争が忘れさられつつある社会の中で、戦争の恐ろしさを知らせ、平和を願う心を育てる必要があると感じテーマを設定した。

具体的目標として以下の6点を中心に活動した。

① 生命を大切にすることを育てる。

本校は2008年に本校児童の尊い命を交通事故で失っている。このことを深く受け止め、毎年2月29日を命の日とし、命の尊さ・大切さについて集会を行う。命の日だけにとどめず日常的に生命を大切にしよう呼びかけを行う。

② 仲間を大切にすることを育てる。

これまで集団作りを重点課題として取り組んできた。今年度も、教育活動全体を通して日常生活の中で児童が共に思いやり、高めあう集団作りを目指す。

③ 個々のちがいを大切にすることを育てる。

障害の有無に関係なく、一人一人のちがいを尊重し、互いに認め合う心を育てるという目標をもとに各学年での取り組みを年度末にまとめ、発表する。

④ 外国の文化に親しみ、相互の理解を深める。

教科の学習と合わせながら様々な国の文化に親しめるようにする。また、外国にルーツがあり、支援が必要な児童がいる場合は関係機関と連絡を取り、必要に応じて書類を配布する。

⑤ 戦争の恐ろしさを知らせ、平和を願う心を育てる。

今年度は平和資料の展示は行わず、戦争や原爆をテーマとしたアニメーションDVDを視聴し、戦争が身近な地域にも影響を与えていたことを知る機会をつくった。

⑥ 男女がお互いに認め合い、共に協力して育ち合う教育を進める。

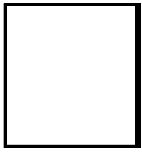
3. 取り組み

- 4月 主題設定 ひとぬくもり・図書館に保管
年間計画及び学年目標作成
- 6月 研究全大会（24日）
- 8月 平和教材展示 →平和人権学習（5日）に変更。
今年度は平和資料の展示は行わず、重点テーマが平和教育であることから、人権学習会をかねて、戦争や原爆をテーマにしたアニメーションDVDを視聴した。
・低学年 「しんちゃんのさんりんしゃ」
・高学年 「つるにのって」
人権学習会後に行う予定にしていた事後指導のためのワークシートを各教室で記入し、各学年で子ども達の感想を数枚提出してもらい、教師間で共有した。
- 9月 参観（人権）→新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
- 11月 校区人研（18日）→新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
- 1月 研究紀要まとめ
実践教材・性教育指導計画見直し
- 2月 研究全体会（17日）
命の日（26日） →テレビ放送で行う。
絵本読み聞かせ「命はどうしてたいせつなの？」
終了後、各クラスにおいて振り返りやワークシートを書く時間をもつ。
ワークシートは人権で作成。
- 3月 性教育実践報告→紀要内で報告する。

2020年度

人権教育実践教材年間計画と学年目標

		集団作り・部落問題学習	支援教育	国際理解教育	平和教育	命・男女共生教育
低学年	目標	友だちを思いやり、みんなと仲よく遊ぶ。	障がいのある友だちのことを知り、みんなでなかよく遊ぶ。	歌や遊び等を通して、世界にはいろいろな国や言葉があることを知る。	戦争のこわさ、平和の大切さを知る。	・男女で仲良く遊んだり、助け合う大切さを知る。 ・自分だけでなく、周りの友達も大切にしようとする心情を養う。
	1学年	・たのしいがっこう(道徳) ・学校を休んだ(道徳)	・見るとか見えないとか(本) ・ワニくんの大きな足(本) ・手話	・こんにちは(音楽) ・学校へいくとき(道徳)	・へいわとせんそう(本) ・へいわってすてきだね(本) ・すみれ島(本)	・うまれたてのいのち(道徳) ・生まれた日のこと(生活) ・名前の由来(生活) ・からだのせいけつ(保健指導)
	2学年	・いいところ みいつけた(道徳) ・ある日のくつばこで(道徳)	・さんぽ(音楽・手話) ・まちたんけん(生活・バリアフリー)	・BINGO(音楽) ・ハンナのなみだ(道徳)	・ライオンがいなくなったどうぶつえん(ひと・いのち)	・性教育教材 ・やくそく(道徳) ・へそのお(保健指導)
中学年	目標	友だちと力を合わせて、共に助け合おうとする。	いろいろな障がいのある人たちがいることを知り、理解を深める。	世界のいろいろな国の文化や生活を知り、日本にもたくさんの外国人が生活していることを知る。	戦争のこわさ、命や平和の大切さを知る。	・男女の身体の特徴を知り、相手の立場や気持ちを考える。 ・生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。
	3学年	・学級しようかい(道徳)	・パラリンピックが目指すもの(国語) ・アイマスク体験	・同じ小学校でも(道徳) ・人をつつむ形(国語)	・いちばんうれしいこと(道徳)	・お父さんからの手紙(道徳) ・助かった命(道徳) ・赤ちゃんもごはん食べているよね(道徳) ・たまごちゃん、たびにでる(保健指導)
	4学年	・遠足の朝(道徳) ・いじりといじめ(道徳) ・交かんメール(道徳)	・ええことするのは、ええもんや!(道徳) ・点字	・Let's Try2(外国語活動)	・世界一美しいぼくの村(国語) ・一つの花(国語)	・思春期にあらわれる変化(保健) ・2分の1成人式(総合) ・十歳の記念日(音楽) ・お腹の中へタイムスリップ(保健指導)
高学年	目標	友だちの気持ちを考え、共に助け合い行動する。	さまざまな障がいについて知り、自分にできることを考える。	世界の国々の文化や生活を理解し、違いを認め合う。	戦争の悲惨さを知り、平和を守ることの大切さを考える。	・男女が共に自分らしく生きていく社会について考える。 ・生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。
	5学年	・真由、班長になる(道徳) ・日帰り体験旅行:班で目標を達成できたか話し合い・日帰り体験旅行を振り返って(総合)	・バリアフリーについて(道徳) ・ヘレンと共に(道徳) ・学校や地域でのけがの防止(保健)	・ペルーは泣いている(道徳) ・マイantzからの便り(道徳)	・手塚治虫(国語) ・母さんの歌(道徳) ・豊中空襲(総合)	・人のたんじょう(理科) ・家庭の仕事(家庭科) ・性教育/月経指導(総合)(保健指導)
	6学年	・ロレンゾの友達・言葉のおくり物(道徳) ・江戸時代の身分制度(社会) ・水平舎(社会)	・スポーツの力(道徳)	・緑の闘士 ワンガリ・マータイ(道徳) ・国調べ(社会)	・「つるにのって」(DVD) ・「ヒロシマのうた」(国語) ・第2次世界大戦 戦後の日本(社会)	・日本国憲法(社会) ・選挙と政治(社会)



5. 平和教育週間

- ・日時 2020年8月5日 2時間目(1～3年生)・3時間目(4～6年生)
- ・場所 各教室
- ・テーマ 平和や戦争に関するDVD視聴
アニメーション教材 1～3年生「しんちゃんのおさんりんしゃ」24分
4～6年生「つるにのって」27分
- ・資料 大阪国際平和センター
豊中市教育委員会 社会教育課

例年、多目的室で“豊中空襲”や“ヒロシマについて”のパネルや戦時中の物品の展示を行ってきたが、本年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止とし、各教室で平和や戦争に関するアニメーションDVDの視聴を行った。日本でも以前に戦争があつて多くの命が失われたこと、日本に原子力爆弾が落とされたことを各担任が事前指導したうえで視聴したが、戦争についてまだ知らないことが多い子どもたちにとって、良い学びの機会となった。これまで行ってきたパネルや物品の展示と合わせて、アニメーションDVD視聴も活用し、戦争について思いを巡らせる機会を持ち続けていきたい。

6. 集団作り研修会（職員研修）→新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

7. 人権学習会→新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

8. 校区人研の取り組み→新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

9. 命の日の取り組み

- ・日時 2021年2月26日（金）
- ・場所 教室→テレビ放送で行う。
- ・内容 校長先生のお話（桜塚小学校命の日について）
山田君の写真を使った子ども達へのお話
絵本の読み聞かせ（「命はどうしてたいせつなの？」大野正人作）
全員で「命の木」を歌う。
各教室でワークシートを記入→各学年数枚ずつを教師間で共有する。

例年、全校児童を体育館に集めて行っているが、本年度は新型コロナウイルス感染予防のため、TV放送で行った。子ども達が、健太君についての映像や絵本の読み聞かせの映像をととても真剣に見る事が出来ており、今回のようなTV放送での形もとても良かったという意見をたくさんいただいた。来年度もスライドショーのような映像を見るのであれば、今回のような形で行う方向で考えていきたい。

10. 来年度への確認事項

- ・「集団作り」を大切にしながらも、幅広く取り組むために重点テーマを1年ごとに変えている。来年度は、「命・男女共生教育」を重点テーマとして取り組み、人権参観も「命・男女共生教育」をテーマとした授業を行う。授業実践報告は紀要で行う。

1.1. 成果と課題

- ・コロナ感染防止のため平和展における平和資料の展示は行わず、各教室でのDVD視聴に変更した。戦争当時に実際使われていた物を見るということはできなかったが、戦争について知っていたこれまでの知識がDVDを視聴することでより鮮明にわかりやすく理解できたようである。特に6年生からは、今後修学旅行前に「つるにのって」のDVDを視聴したいという声も聞かれた。そこで、今後、低学年・中学年・高学年用のDVDを準備し、平和展とDVD視聴を交互に行っていこうと考えている。さらに、平和資料展示とDVD視聴を同時に行う方向で進めていきたい。
- ・今年度、実践教材年間計画の見直しを行った。これまで、毎年計画は立てていても実際には取り組んでいない教材があり、もっと日々の実践に役立つ計画に変えたいと考えたからである。毎年見直しを行いながら各学年における重点教材を設定し、系統立てていくことが今後の課題である。さらには、実践時期も決めることで、重点テーマだけでなく全てのテーマの実践を確実に行うようにしていきたい。
- ・数年前から、4年生の児童一人一人に配布されている「TO YOU」という男女平等教育啓発教材の内容を3分割し、6年生までの3年間で活用できないかを検討していきたい。

15. 性教育指導計画案

		低学年	中学年	高学年
目標		<ul style="list-style-type: none"> ・男女の体の違いに気付くとともに、自分は父親と母親から生まれ、愛情と保護によって育てられたことを知り、自分を大切にしようとする気持ちを育てる ・男女の体には違いがあるが、人間としてともに大切な存在であることを知り、男女の別なく仲良くしようとする態度を育てる。 ・家族は互いに助け合って生活していることに気付き、家族の一員として協力していこうとする態度を育てるとともに、性被害等を防ぐ方法を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・体のつくりや働きを理解するとともに、男女の体の違いや発達の特徴を知り、互いに尊重し合う態度を育てる。 ・男女が互いの違いや良さに気付き、互いに相手を尊重し、男女仲良く協力する態度を育てる。 ・家庭の機能について理解し、家庭における自分の役割を自覚して行動する態度を育てる。また、性情報を正しく受け止め、適切に行動しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の発育・発達には男女や個人によって違いがあることを知るとともに、生命の連続性や人の誕生について理解し、自他の生命を尊重する態度を育てる。 ・異性に対する心は男女に違いがあることを知り、互いに尊重し、よりよい男女の人間関係を築こうとする態度を育てる。 ・家庭や社会における男女の役割について考え、固定的な性役割にとらわれず男女が協力することの大切さを知るとともに、性情報や性被害、エイズに関することなどについても認識を深め、健康で安全な生活を営む態度を育てる。
指導内容	からだの発育・発達に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の違いに気付けさせ、自分や相手を大切にしようとする心情や態度を育てる。 ・人間にはいろいろな器官があり、それぞれが大切な働きをもっていること、性器は大切な器官であり、清潔にすることが大切であることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の発育・発達の仕方や体つきには男女や個人によって違いがあることを知らせ、精通、月経の仕組みなどについて科学的に理解させる。 ・女子に対しては初経に対する心構えや月経の手当ての仕方を習得させるとともに、男子に対しては、精通に対する心構えを持たせるなど、生活上の配慮について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の体つきの変化や心身の発育・発達には男女や個人差によって違いがあることを理解させ、心理的な安定を図る。特に女子の場合は、初経への対応や月経に関する不安の解消についてきめ細かく指導する。また、男子は精通を経験する児童もおり、心理的に不安定になることもあるので、個別指導が必要な場合もある。
	心理的な発達に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の飼育や植物の栽培をして生命の大切さを知らせるとともに、自分は父親・母親によって生まれ、愛情と保護によって育てられてきたことに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友達との関係を通して、自己を見つめ、他人を思いやる心を育てる。 ・自分のよさや他人のよさに気付けさせ、他人へのいたわりや思いやりの気持ちを育てるとともに、生命の誕生について簡単に理解させ自他の生命を大切にしようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次性徴の発言や思春期における心の変化について理解を深めさせ、不安や悩みを解消させる必要がある。 ・男女の体の特徴について理解させ、自他の生命を尊重する態度を育てる。
	男女の人間関係に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・男女が互いに仲良くし、助け合い、自他を大切にしようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女が相互に理解し合い、好ましい異性感や性意識を形成していくことが大切であることを理解させる。 ・男女には体や物事に対する感じ方や考え方に違いがあるが、人間として同じであると理解させ、性別にこだわらず、互いに理解し合い仲良く協力していこうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期になると異性に関心をもったり親しくしたいという気持ちが生まれやすくなることを知らせる。 ・人には感じ方や考え方に違いがあることを理解させ、多くの友達との関わりの中で、相手の立場や気持ちを尊重しながら、よりよい男女の人間関係を築いていくことが大切なことを理解させる
	社会的な面に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・固定的な性役割に偏ることなく、家庭には様々な役割があり、家族が助け合って生活していくことを理解させる。 ・家族の中の自分の役割を知り、自分も家族の一員として役割を分担していこうとする態度を育てる。 ・児童に誘拐や性被害等を避けるための基本的な行動や態度を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な家庭の形や、家庭によって異なる家族の役割を理解し、家族や自分の役割について考え、自分の家族の一員としての役割を果たそうとする態度を身に付けさせる。 ・マンガやテレビ等から得る有害な性情報等について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の役割は固定的なものではないことを理解させるとともに、互いに男女のよさを認め合い、互いができる仕事を分担し、協力して生活していく態度を身に付けさせる ・性被害の実態を知らせ、被害を避けるための態度や行動を身に付けさせる。 ・エイズという病気を理解させ、エイズについて偏見や差別を持つことなく、正しい判断ができる能力と態度を育てる。

12. 重点テーマ「平和教育」各学年の授業実践報告

学年	教材名	ねらい	授業を終えて
1年	平和の木	戦争と平和について知る。 世界にはいろいろな国があり、いろいろな子どもたちがいることを知り、自分たちの身近な平和について考える。	平和学習では、戦争の怖さを知り平和の大切さを知ることができた。戦争をイメージしにくい児童のため絵本などの読み聞かせや道徳の授業で身近な友だちに目を向け、大切に思う気持ちを育てることができた。 また、「今、自分たちが平和だな。」と思うときを考え、より平和について深めることができた。
2年	ライオンのいない動物園	遠足へ行く予定地でもあった天王寺動物園での、戦争中に本当にあった出来事を知り、身近な場所での戦争について知り、戦争と平和について考える。	学習の中では、戦争中の衝撃的な出来事に言葉を失う子児童もいた。天王寺動物園という身近な場所での“平和”ではない時代の事実を知り、今の平和がどれだけ素晴らしいものなのかを学習することができた。
3年	いちばんうれしいこと	アンパンマンの誕生の背景には、作者やなせたかしさんの戦争経験があることを知り、本当の正義とは何か、人間にとって一番うれしいことは何かについて考える。	自分を傷つけても人を助けるアンパンマンの姿から、本当の正義とは人を助けることであり、人間にとって一番うれしいことは人を喜ばせることであるというやなせさんの思いを理解し、「戦争とはただ人を苦しめる悲しい戦いだ」と戦争や平和についても考えることができた。
4年	一つの花	日本も含めて世界中に戦争があったこと、そして現在でも世界では、戦争や紛争などが続いていることを知り、戦争と平和について考える。	苦しくつらい戦争の時代を超えて今の日本があるということを知り、これからも平和な世界を築いていきたいという思いを持つことができた。 また世界では、今も戦争によって、生活を脅かされている人がいることを知り、戦争中のくらしと平和なくらしについて考えることができた。
5年	豊中空襲について	・自分たちの住む豊中市にもかつて空襲があったという事実を知ること、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える。	当初、戦争はあってはならないもの、原爆などの漠然としたイメージを持つ児童が大多数であった。しかし、自分たちが住む地域でも空襲があり多大な被害があったことを学習し、戦争に現実味が加わりより具体的に恐ろしさや悲惨さを感じ、なぜあってはならないかという理由についても考えられる児童が増えた。
6年	国調べ	地球全体の様子や世界の人々のくらしに関心を持ち、日本と世界の国々のつながりについて考える。また、自分たちが興味を持った国について調べ、より広く世界の文化やくらしについて学ぶ。	歴史の学習と平和学習を通じて、日本がどのように他国とつながり、影響を受けてきたのかを学び、現代にもつながる関係性や国際問題について考えることができた。また、各国の文化について調べ、「国調べ新聞」を作る中で、世界の国々の暮らしやそこで生きる人々について考えることができた。

1 3. 平和教育各学年の1年間の取り組み

低学年	戦争のこわさ、平和の大切さを知る。
-----	-------------------

1年

1. 目標 友達のことを思って、大切にすることの喜びに気づき、友達と仲良くしようとする心情を育てる。

戦争のこわさ、平和の大切さを知る。

2. 具体的な取り組み

- ・平和人権学習会では、アニメーション教材「しんちゃんのおさんりんしゃ」を視聴し戦争の怖さや悲惨さを知り、平和や命の大切さを知った。
- ・絵本「へいわとせんそう」「ぼくがラーメンたべてるとき」「すみれ島」「へいわってすてきだね」などの読み聞かせをおこない戦争や平和について考えた。
- ・道徳「二わのことり」では、身近なともだちのことを大切に思う気持ちや、仲良くしようとする気持ちについて考えた。
- ・「平和の木」では、葉に自分たちの身近な平和だと思うことを書き発表した。

3. 活動を通して

- ・どの活動でも、子どもたちは楽しみ興味を持って取り組むことができた。世界には、戦争をしている国があり、学校に通うことができない子どもがいることや、家族と一緒に過ごすことが難しい子どもたちがいることを知った。自分たちにとっての平和について考えることができた。

2年

1. 目標 友だちの大切さに気づき、自分のまわりの平和について考えることができる。

2. 具体的な取り組み

- ・道徳「およげないりすさん」「いいところみつけた」では、友だちを大切に思う気持ちを持ち、かつ自分のいいところを大切にす気もちを持った。「ある日のくつばこにて」では、上ぐつかくしの現場に遭遇した中心人物の心のゆれから、身の回りの友だちと平和にすごすためにどうすればいいかを考えた。
- ・“ひと いのち”の教材である「ライオンのいない動物園」の学習から、日本で起きていた戦争について学習した。

3. 活動を通して

- ・道徳の学習では、自分以外の人立場に立つことによって、相手がどう思うかについて、広い視野を持つことができた。学校で起こった問題について、自分だったらどうするかを考えることによって、人と人とのかかわり方について多様な考え方があつて共有することができ、自分のまわりの平和について考えることができた。
- ・「ライオンのいない動物園」の学習では、戦争中の衝撃的な出来事に言葉を失う子児童もいた。天王寺動物園という身近な場所での“平和”ではない時代の事実を知り、今の平和がどれだけ素晴らしいものなのかを学習することができた。

中学年

戦争のこわさを知り、命や平和の大切さを願う。

3年

1. 目標 戦争が人々を苦しめてきた事実を知り、平和な生活を送ることの大切さについて考える。

2. 具体的な取り組み

8月5日にDVD「しんちゃんのさんりんしゃ」を見て、日本が戦争をしていたこと、広島に原爆が落とされたことを知り、戦争がどれほど人々の平和な生活を脅かすものであるかを学んだ。道徳「いちばんうれしいこと」では、アンパンマンが誕生した背景に作者のやなせたかしさんの戦争体験があることを知り、本当の正義とは何か、人間にとって一番うれしいことは何かについて考えた。

3. 活動を通して

児童は、戦争や原爆について何となく聞いたことがあり、知っているつもりであったが、しんちゃんのさんりんしゃのDVDを見ることで戦争中の生活が常に危険と隣り合わせであり、三輪車で遊ぶこともできない制限された生活であることを知り、今がいかに平和であるかに気付くことができた。さらに「いちばんうれしいこと」では、やなせたかしさんの戦争経験から「戦争は絶対にしてはいけない」「本当の正義（いいこと）は、人を助けることで争うことではない」「食べ物が食べれて、生活ができて家族がいるって幸せなんだなあと考えた」と考えることができた。

4年

1. 目標 日本も含めて世界中に戦争があったこと、そして現在も続いていることを知り、戦争と平和について考える。

2. 具体的な取り組み

国語科の「一つの花」と「世界一美しいぼくの村」に取り組んだ。「一つの花」では、ゆみ子の家族の生活から、食糧不足や空襲など、戦争時代の苦しくつらい生活の様子について学んだ。徴兵によって家族などの身近な人の命も奪われてしまうといったことも学んだ。「世界一美しいぼくの村」では、現在でも世界では、戦争や紛争などが続いていることについて学んだ。愛する故郷や命、生活などが戦争によって、一瞬のうちに奪われてしまうという戦争の恐ろしさを学んだ。

3. 活動を通して

苦しくつらい戦争の時代を超えて今の日本があるということを知り、これからも平和な世界を築いていきたいという思いを持つことができた。また世界では、今も戦争によって、生活を脅かされている人がいることを知り、世界から戦争がなくなる事を願う気持ちを共有し合った。

高学年

戦争の悲惨さを知り、平和を守ることの大切さを考える。

5年

1. 目標 豊中空襲について学び、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える。

2. 具体的な取り組み

自分たちの住む豊中市にもかつて空襲があったことを、写真や映像などの資料を通して知った。

地図や現在の航空写真をもとに、実際に空襲の被害があった場所を確認し、具体的に想像しながら、被害について考えた。

爆弾や爆撃機などについても学習し、豊中空襲を体験した方々の手記をもとに、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考えた。

3. 活動を通して

当初、戦争はあってはならないもの、原爆などの漠然としたイメージを持つ児童が大多数であった。しかし、自分たちが住む豊中でも空襲があり多大な被害があったことを学習し、戦争に現実味が加わりより具体的に恐ろしさや悲惨さを感じ、なぜあってはならないかという理由についても考えられる児童が増えた。

戦争の恐ろしさや平和の大切さを考えるだけでなく、これからの世代の自分たちがどのように受け継いでいくことが大切かについても考える児童もいた。

自分たちが住む町、豊中の戦争や空襲について具体的に学んだことを通して、これからも平和を大切にし、平和を受け継いでこうとする気持ちにつながってほしい。

6年

1. 目標 日本で起きた戦争について学び、戦争の悲惨さや平和の大切さに気付く。また、平和のために自分ができることは何か考える。

2. 具体的な取り組み

今年度は修学旅行に行くことが出来なかったため、国語科の「ヒロシマのうた」と社会科の「戦後の日本」を通して学習した。今とは違う街並みの様子や情景を説明することで被害の大きさや戦争による苦しみを考えた。

3. 活動を通して

日本で戦争があったことは知っていたが実際にどれほどの威力があったのか詳しく知らない児童が多かった。平和学習を通し、実際の被害者数や被害状況など、戦争の悲惨さや恐ろしさを具体的に知ることができた。また、学んだことを活かし自分の生活環境と比べ、改めて平和の大切さを感じることもできた。

1 4. 性教育指導計画案

		低学年	中学年	高学年
目標		<ul style="list-style-type: none"> ・男女の体の違いに気付くとともに、自分は父親と母親から生まれ、愛情と保護によって育てられたことを知り、自分を大切にしようとする気持ちを育てる ・男女の体には違いがあるが、人間としてともに大切な存在であることを知り、男女の別なく仲良くしようとする態度を育てる。 ・家族は互いに助け合って生活していることに気付き、家族の一員として協力していこうとする態度を育てるとともに、性被害等を防ぐ方法を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・体のつくりや働きを理解するとともに、男女の体の違いや発達の特徴を知り、互いに尊重し合う態度を育てる。 ・男女が互いの違いや良さに気付き、互いに相手を尊重し、男女仲良く協力する態度を育てる。 ・家庭の機能について理解し、家庭における自分の役割を自覚して行動する態度を育てる。また、性情報を正しく受け止め、適切に行動しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の発育・発達には男女や個人によって違いがあることを知るとともに、生命の連続性や人の誕生について理解し、自他の生命を尊重する態度を育てる。 ・異性に対する心は男女に違いがあることを知り、互いに尊重し、よりよい男女の人間関係を築こうとする態度を育てる。 ・家庭や社会における男女の役割について考え、固定的な性役割にとらわれず男女が協力することの大切さを知るとともに、性情報や性被害、エイズに関することなどについても認識を深め、健康で安全な生活を営む態度を育てる。
指導内容	からだの発育・発達に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の違いに気付かせ、自分や相手を大切にしようとする心情や態度を育てる。 ・人間にはいろいろな器官があり、それぞれが大切な働きもっていること、性器は大切な器官であり、清潔にすることが大切であることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の発育・発達の仕方や体つきには男女や個人によって違いがあることを知らせ、精通、月経の仕組みなどについて科学的に理解させる。 ・女子に対しては初経に対する心構えや月経の手当ての仕方を習得させるとともに、男子に対しては、精通に対する心構えを持たせるなど、生活上の配慮について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の体つきの変化や心身の発育・発達には男女や個人差によって違いがあることを理解させ、心理的な安定を図る。特に女子の場合は、初経への対応や月経に関する不安の解消についてきめ細かく指導する。また、男子は精通を経験する児童もおり、心理的に不安定になることもあるので、個別指導が必要な場合もある。
	心理的な発達に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の飼育や植物の栽培をして生命の大切さを知らせるとともに、自分は父親・母親によって生まれ、愛情と保護によって育てられてきたことに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友達との関係を通して、自己を見つめ、他人を思いやる心を育てる。 ・自分のよさや他人のよさに気付かせ、他人へのいたわりや思いやりの気持ちを育てるとともに、生命の誕生について簡単に理解させ自他の生命を大切にしようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次性徴の発言や思春期における心の変化について理解を深めさせ、不安や悩みを解消させる必要がある。 ・男女の体の特徴について理解させ、自他の生命を尊重する態度を育てる。
	男女の人間関係に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・男女が互いに仲良くし、助け合い、自他を大切にしようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女が相互に理解し合い、好ましい異性感や性意識を形成していくことが大切であることを理解させる。 ・男女には体や物事に対する感じ方や考え方に違いがあるが、人間として同じであると理解させ、性別にこだわらず、互いに理解し合い仲良く協力していこうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期になると異性に関心をもったり親しくしたいという気持ちが生まれたりすることがあることを知らせる。 ・人には感じ方や考え方に違いがあることを理解させ、多くの友達との関わりの中で、相手の立場や気持ちを尊重しながら、よりよい男女の人間関係を築いていくことが大切なことを理解させる
	社会的な面に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・固定的な性役割に偏ることなく、家庭には様々な役割があり、家族が助け合って生活していくことを理解させる。 ・家族の中の自分の役割を知り、自分も家族の一員として役割を分担していこうとする態度を育てる。 ・児童に誘拐や性被害等を避けるための基本的な行動や態度を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な家庭の形や、家庭によって異なる家族の役割を理解し、家族や自分の役割について考え、自分の家族の一員としての役割を果たそうとする態度を身に付けさせる。 ・マンガやテレビ等から得る有害な性情報等について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の役割は固定的なものではないことを理解させるとともに、互いに男女のよさを認め合い、互いができる仕事を分担し、協力して生活していく態度を身に付けさせる ・性被害の実態を知らせ、被害を避けるための態度や行動を身に付けさせる。 ・エイズという病気を理解させ、エイズについて偏見や差別を持つことなく、正しい判断ができる能力と態度を育てる。

15. 性教育 各学年の授業実践報告

学年	目標	資料・指導内容	指導を終えて
1年	お家の人に自分の生まれる前や生まれた時、小さい頃の様子や家族の気持ち、自分の名前の由来を知り、命の大切さについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前の由来を聞き、家族が様々な思いや願いを込めて名前をつけてくれたことに気づくとともに、名前の大切さを知り、感じたことや気持ちを書く。 ・自分がお腹の中にいた時の話や生まれた時の様子をお家の人から聞いて、家族の人に大切に育てられてきたことを知り、感じたことや気持ちを書く。 ・友だちの生まれた時の様子を聞き、いのちの大切さを知る。 	自分が生まれる前や赤ちゃんの時の様子、自分の名前の由来を初めて聞いた児童も多く、興味関心をもつと同時に家族に大切にされていることを実感できたようである。児童にとって自分自身の成長を振り返るよい機会となった。今回の学習から、命の大切さや家族のあたたかさを感じながら、これからも成長して行ってほしい。また、今後も、家族の一員として自分のできることは何かを考え、お手伝いなどをすすんで取り組ませていきたい。
2年	おなかの中で大切に命をはぐくんでくれたことを改めて認識するとともに、今まで育ててくれた家族に対する感謝の気持ちをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本「うちにあかちゃんがうまれるの」「あかちゃんてね」の読み聞かせをし、おなかのなかで育ち、生まれ、成長していく姿を知る。 ・道徳「生きているから」では、生き物にはそれぞれに一つずつの命があることを理解し、命があるからこそ、喜んだり、悲しんだり、いろいろなことを感じられることに気づき、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命が宿った時から出産、そして成長していく赤ちゃんのすがたに興味を持って知っていく姿が見られた。 ・「手のひらを太陽に」を歌い、改めて歌詞の意味を知ること、生きているからできること、そしてやってみたいことについて子どもたちそれぞれ見つめなおし、やってみたいことは何かをかんがえるきっかけになった。
3年	自分の良さや、他人へのいたわりや、思いやりの気持ちを育てるとともに、自他の命を大切にしようとする態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「お母さんのふふふ」では、お互いのいいところを見つけあうために、いいところ帳を使い、お互いのいいところを伝え合った。 ・「ぼくのボールだ」では、いろいろな気持ちを持っている友達がいることに気づき、みんなが楽しく遊ぶためにはどうしたらいいかについて、考えた。 ・道徳の教材や平和学習を通して、一人ひとりの命の大切さについて考えた。 	いいところ帳に取り組み、友達の行動を意識してみることで、友達への見方が変わり、関係を広げることができた。おうちの人からも、いいところについて、話をしてもらい、自分自身を大切にしようという気持ちを持つことができた。 3年生という学年で、男女関係なく仲良く過ごしているが、これからも互いの良さに気づき、違いを認め合い、互いを大切にしようとする態度を育てたい。

学年	目標	資料・指導内容	指導を終えて
4年	<p>思春期や第二次性徴期を迎えるにあたって起きる、心や体の変化について学び、これからの自分たちの成長について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二分の一成人式の学習の一環として取り組んだ。これまでの自分の成長をふり返ると共に、将来の自分についても考えた。 ・保健の教科書を使って、人によって成長に個人差がある事、男女の体つきの変化がいや心の変化について、また、よりよく成長していくために心がけることなどを学習した。 ・絵本「おおきくなるっていうことは」「人の成長」について、絵本「いのちのまつり対スガズジ」で命のつながりについて考えた。 ・豊中市の男女平等教育啓発教材「To you」を補助教材として使用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活の中で少しずつ男女の違いを感じてきている児童が多く、積極的に授業に取り組む児童が多かった。 ・これから起こる体の変化に不安を覚えている児童もいたが、大人になっていく上で必然の事であり、命を次の世代につないでいく大事な変化であることに気づき、意識に変化が見られた。 ・多様な性を認めていく必要があるという現代の社会問題について考えることができた。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ●男女のからだの特徴について理解し、性についての正しい理解を深める。 ●からだの変化について理解を深め、不安を減少させ、快適に生活を送れるようにする。 ●自分の行動や言動について、考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の授業 動物の体、人の体について学習し精巣、卵巣など体のしくみについて学んだ。 ・男女別保健指導 男女に別れてからだの仕組みについての学習を行った。女子は、月経について学習し、具体的な対応や処置について学んだ。男子は、赤ちゃんの人形を用いて、命の誕生についての学習を行った。また、性に対する理解を深め、自分の言動や行動について考えた。 	<p>体の変化を理解する児童もいる中で、いろいろな情報の中から得た性的な言葉を冗談交じりで発言する児童もいた。学習を通して、性について正しい理解をすることができ、性や命については「正しく理解すべき大切なことである」という考えが児童の中で広がっていった。</p> <p>女子は、月経について正しい理解を深め対処法を学び、不安や悩みを取り除くことができた。</p> <p>からだの成長には個人差があるので、今後も継続して保健指導を行い正しい理解を深め、児童の不安や悩みを取り除いていくことが大切だと感じる。</p>

<p>6 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病原体等の知識を得て、感染症の予防について考えさせる。 ・思春期の心理等を考え、日頃より、自ら考えて行動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安定な成長期を迎えていることを理解して、からだづくりのためには、正しい食生活と規則的な生活が必要であることを理解する。 ・生活習慣病について理解し、栄養・睡眠・運動等の生活のリズムが必要なことを理解する。 ・感染症等の予防は、病原体がからだに入るのを防ぐことが重要である。そのためには、病原体に対する抵抗力を高めることが必要なことを理解する。 ・不安定な成長期としては、思春期特有の生活があることを考え、二次成長からくる、性への関心や自我の目覚めなどの心理的変化について理解し、さらにそれらを高めるための取り組みが必要なことを理解する。 	<p>体の変化や心理的変化に不安を抱えていた児童もいたが、正しい知識やこれらの変化との向き合い方について考えることで、安心した様子がみられた。しかし、成長には個人差があるので、成長の度合いにより、理解に差があるように思われる。児童の成長に合わせて、何度か指導する必要がある。</p>
----------------	---	---	---

外国語・総合研究委員会

1. 研究主題

外国語の授業づくり
～指導と評価の一体化～

2. 研究主題設定の主旨および活動内容

新指導要領が施行となり、3・4年生から外国語活動が始まり、5・6年生では外国語の授業が教科として位置づけられるようになった。教科書の内容も増え、「書くこと」も授業内容に入るようになった。こうした新指導要領に伴う変化に合わせた授業づくりの研究が急務となった。また評価においても、5・6年生では、「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学びに向かう態度」の三つの観点と、「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」の五つの領域を合わせた、十五の評価観点からみとることとなった。新指導要領に則した授業づくりを進めるにあたり、この新たな評価観点と授業内容を一体化させていくことが求められる。そのため本研究委員会では、新指導要領と新しい教科書を用いた、指導と評価が一体となった授業づくりを研究していくことを主題とした。

また、昨年度から全学年が外国語に触れ、親しみがもてるようにと取り組んできた、朝の英語タイムなどの校内の環境づくりにも引き続き取り組んでいる。

(1) 各教科カリキュラム

カリキュラムについて実際に実践した結果を学期ごとにまとめ、本校独自のカリキュラムを作成している。

(2) 外国語活動

今年度は、外国語の研究授業とコアスクールでの取り組みでの研究授業を行った。夏季研修会が行えなかったため、事後研では、コアスクールで指導していただいている豊中市立第三中学校の上村先生に「外国語でつきたい力」についてお話をいただいた。

昨年度に引き続き、英語のカードや既存の教具・教材などを整備したり、外国語の歌や校内掲示環境の推進を行ったりしながら、児童が興味深く学べる授業作りができるような環境を整えてきた。

また、月に2回木曜日の朝に全校で英語タイムを実施し、より英語に親しめる環境づくりをしている。

◎ 外国語の取り組み ◎

昼の歌

- 目的 全学年の児童が外国語の歌を通して、外国または外国語に興味を持ち親しむ。
- 時間 毎日、給食時間中（12時40分ごろ）に放送委員が放送する。
- 年間計画 8, 9月・・・It's a small world エーデルワイス
10月・・・Do-Re-Mi（ドレミの歌）
11月・・・If You're Happy And Know It（幸せなら手をたたこう）
12月・・・BINGO（こいぬのビンゴ）
I love the Mountains カントリーロード
1, 2月・・・Head, Shoulders, Knees And Toes The Hokey-Pokey
3月・・・ロンドン橋 Olympic Hymn（オリンピック賛歌）

掲示物

- 目的 全学年の児童が常に外国語を目にし、意味を知ることによって外国または外国語に興味を持ち親しむ。
- 活動 掲示委員会と連携し、下足室前・手洗い場の掲示板に掲示物を英語で表記する。
テーマは、掲示委員会の子どもたちが決め、それに合った掲示物を作成する。
テーマに関する言葉や単語を「綴り」「読み」「意味」を絵などと合わせて掲示する。

英語タイム

- 目的 全学年の児童が月2回の英語活動を通して、外国または外国語に興味を持ち、英語に親しめるようにする。
- 年間計画 毎月第1木曜日を全校放送、第3木曜日を各クラスで行う。
朝8:30～（10分程度）英語の授業を実施
学習内容は、DVD, CD, デジタル教材、フラッシュカード等を使用
全校放送 各クラス1枚（教師分）チャンツのプリントを配布する。
7月・・・チャンツ（バナナ・ライオン）
8月・・・日本昔ばなし（かぐやひめ）
9月・・・チャンツ（ABC・ドイツ）
10月・・・チャンツ（マラソン・テレホン）
11月・・・チャンツ（ハンバーガー・セーター）
12月・・・日本昔ばなし（12支のはなし）
1月・・・チャンツ（ビル・ハム）
2月・・・日本昔ばなし（はなさかじいさん）

<英語タイム 今年度の学年ごとの実践報告>

学年	取り組み	成果と課題
1年	A B Cの歌などの英語の歌を聴いた。また耳から入った音をそのまま声に出すように歌った。楽しく英語に親しめるように、聴くだけでなく映像付きのものにした。また、繰り返し同じものを聴くようにした。色や数字、チャンツなど英語に親しんだ。	<p>【成果】 英語に抵抗なく、楽しむことができた。繰り返し聴くことにより、何曲か歌えるようになった。覚えた英語を意欲的に使う場面もあった。</p> <p>【課題】 元々知っている子や英語を習っている子とそうでない子の差が大きい。</p>
2年	What ~ do you like?の構文を元に、色・動物・食べ物について取り組んだ。主に英語カードを使ってゲームやチャンツをしたり、友達同士でインタビューをしたり、子どもたちの興味が持てる活動を重視した。年に二回あったドン先生の授業も楽しく参加していた。	<p>【成果】 英語タイムの日を楽しみにしている児童もたくさんいる。普段の授業ではなかなか発表できない子も、英語タイムの時には周りと同じように手を挙げている。3年生の英語の授業を楽しみにしている児童も多い。</p> <p>【課題】 1学期は色と動物、2学期は食べ物とスポーツなどのように、内容を統一していると取り組みやすい。</p>
3年	デジタル教科書や英語カードを使い、数字、色、気持ちを表すことばなどの簡単な英単語の音声に慣れ親しんだ。また、好きなスポーツなどのインタビューをしたり、ビンゴなどのゲーム形式の活動にも取り組んだ。	<p>【成果】 英語に興味を持ち、前向きに取り組むことができた。英語のリズムで覚え、デジタル教科書のチャンツを楽しく口ずさむことができた。</p> <p>【課題】 現時点では、取り組む姿に差は見られないが、今後の事を考えると、全員が分かりやすく取り組める教材作りをする必要がある。</p>
4年	フラッシュカードを使用し、簡単な英単語の定着を図った。英単語を使い、英語の簡単な表現（自己紹介、天気など）に取り組んだ。	<p>【成果】 前向きに英語に取り組むことができた。</p> <p>【課題】 英語に苦手意識を持っている児童との差が見られた。</p>
5年	プリントを使用してローマ字の練習に取り組んだり、チャンツをしたり、Hi, friends!のアルファベット当てクイズなどを通して英語の基礎の定着を図った。	<p>【成果】 一年間を通して書く力がついてきた。チャンツでは、単語だけでなく会話の練習にも取り組んだことで授業の予習や復習になった。</p> <p>【課題】 英語に苦手意識を持っている児童との差が見られた。内容についてはクラスによって少しばらつきが見られた。</p>
6年	外国語の授業で学習したフレーズや単語の復習	<p>【成果】 DVD やチャンツを通して、楽しんで英語に親しんでいる。また普段の授業を楽しんで受けているので、積極的に聞いたり話したりする児童が多い。</p> <p>【課題】 今年度は時間がなかなかとれず、授業の復習が中心となってしまった。</p>

【来年度に向けて】

- ・第一木曜日を全体、第三木曜日をクラスでの指導としていたが、どちらも全体の英語タイムにする。
- ・第一木曜日は物語を流し、第三木曜日はチャンツを流すようにする。
- ・『バナナじゃなくて banana チャンツ』のテキストをプリントしたものをラミネートし、各クラスに、配布する。

(3) 役割分担

- | | |
|--|-------|
| ・代表 | 高柳 |
| ・小中連携 | 松田 |
| ・総合 カリキュラム 今後の系統と実践のまとめ
(低学年) 笹部・田口 (高学年) 奥田・樋口 | |
| ・外国語 英語タイム | 奥田・田口 |
| 研修 | 笹部・松田 |
| 評価 | 松田・奥田 |
| 研究授業・外部研修 | 樋口・高柳 |
| 掲示委員会 | 笹部・田口 |

外国語科 学習指導案

豊中市立桜塚小学校

指導者 高柳 晴美 (T1)

上梶 貴恵 (T2)

(豊中市立第三中学校)

1. 日 時 2021年1月29日(金) 6限 (14:35~15:20)

2. 学年・組 6年3組 27名

3. 場 所 多目的教室

4. 単元名 Lesson 6 『 I want be a _____. なりたいものは何?』
将来つきたい職業と、その理由を伝えよう

5. 単元目標

- ① 互いの夢を知り、卒業してからも互いに応援し支え合うために、将来つきたい職業について、何がしたいか、どんなことができるかなど、自分の夢を伝えたり、伝え合ったりすることができる。
《 聞くこと・話すこと (やりとり・発表) 》
- ② ゆっくりはっきりと話されれば、短い話の概要を、イラストを見ながらとらえることができる。
《 聞くこと 》
- ③ 自分や相手のことに関する事柄について書かれた聞いたことのある簡単な語句や基本的な表現を見て、イラストや音声を頼りにその意味がわかる。
《 読むこと 》
- ④ 互いの夢を知り合ったり、現在の自分を伝えたりするために、将来つきたい職業を、見本を見ながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。
《 書くこと 》

6. 単元について

本単元は、6学年の3学期での配当である。卒業を控えている時期であることから、キャリア教育との関連で、自分たちの未来に思いをめぐらし、将来の姿として思い描いた事柄を伝えることを単元のねらいとしている。『将来の夢を伝える』という目的を達成するために、段階をふんで学習をしている。

(1) 教材観

本レッスンは、Presentation 3 (JUMP) での将来の夢やつきたい職業を紹介するという課題に直結するレッスンと位置付けられる。職業を話題に、Listen & Talk ⇒ Enjoy Listening ⇒ Talk to Friends の学習過程の流れで、職業名、[I want to be …] [I want to do …] などの表現に習熟していく。Part 1 では復習を兼ねて She is a Librarian. のように第三者の職業を伝える表現を、Part 2 では [I want to be …] でつきたい職業を伝える表現を、Part 3 では Part 2 で学習した表現に 一文を加えて理由などを伝えるというように、段階を追って丁寧

に、つきたい職業や、その職業についたらできること、したいことなどを表現する経験をさせる流れになっている。Part 3 の2文「つきたい職業」と「その理由」は、接続詞 because を使って言い表せることができるようにした。

レッスンのまとめの活動として Write & Talk を設定している。自分のつきたい職業をなぞり書きと書き写しで[I want to be...] で表現したのち、友だちと尋ね合う。質問で使「What do you want to be?」は、本教科書では児童に発話できることを求める表現としては扱っていないが、本レッスンの Part3 に至るまでに何度も聞いており、なじみのある表現となっているので、例文として提示している。この活動に限定した発話であることを意識しておきたい。

(2) 児童観

本年度は、年度当初より第3中学校の上村先生を T1 として英語の学習を進めてきた。1時間の授業の中に繰り返して単語の練習や復習、友だちとの短い会話のやりとり、「勇者」として挙手しての会話の発表などさまざまな形で英語を楽しんで学習してきた。どの児童も積極的に興味深く学習に取り組んでいる。英語に苦手意識があったり、外国人の先生が話すことがわからなくて消極的だったりした子も授業を開始したころは聞かれたが、毎時間、同じようなリズムでレッスンが繰り返されてきたので、「話す・聞く・読む・書く」などの活動が自然と身についてきたように感じる。ペアで話すことや、英語で短い文章や物語を聞きとること、ノートにアルファベットや英文を書くことなども抵抗なく取り組んでいる。1学期の終わりには、3人のグループで学校行事の紹介や1年の季節行事の紹介をみんなの前で英語でプレゼンしたり、2学期には、AETの先生との1対1の買い物のやりとりを英語で行うテストに挑戦したりした。表情も評価の対象になっていたが、緊張しながらもやわらかい表情で取り組むことができた。しかし、ペアワークなどは、慣れたクラスの子ども同士で行っているのもそれぞれが自分なりに会話を楽しんでいるが、手を挙げて「勇者」になる子が回を重ねるごとに数人に決まってきている。「みんなといっしょに・・・」や「二人で・・・」「近くの子と・・・」という活動は楽しめるが、いざ一人でみんなの前で話すとなると消極的になってしまう子が多い。これは、ほかの授業でも同じであるが、英語となるとなおさらである。1年間の終わりに向けて、全体に力もついてきているので、少しでもたくさんの子どもが自分に自信をもって「勇者」に手を挙げられるようになってほしい。

(3) 指導観

外国語の学習においては、発音や聞き取りだけの活動にとどまらず、書く活動にも取り組んできた。ただ、単語を書くのではなく、文字の大きさや形、文末の書き方、単語のつながりを意識した文章のルールを、年間を通して指導し、書いてきた。今回の学習でも、発音・聞き取り、書く活動を取り入れていきたいと考えている。

今回の Lesson 6 では、「I want to be _____ .」の表現を使い、自分の将来の夢やつきたい仕事などを紹介する活動を行う。その中で、まず、様々な仕事の英単語や文章での表現の仕方を紹介し、児童が自分の言葉で発表できるように学習を進めていく。単元の後半では、それらの英単語や表現を使い、英作文での「書く」活動を行う。その後、その文章を伝え合う「話

す（やりとり）・聞く」の活動を取り入れていく。「話す（やりとり）・聞く」の活動の前には必ず教師が発音のやり取りの見本を行うようにし、児童が安心して行えるようにする。

ただ発表し合うだけでは、飽きがきてしまう児童やなかなか積極的に発表できない児童もいると考えられる。そこで、聞き取った内容をビンゴゲームやクイズにつなげていくことなどして、ゲーム性を持たせた楽しめるアクティビティ活動にしていきたい。発表を楽しみながらたくさんの人と英語をつかって伝え合う活動を行ってほしい。また、この活動の中で、英単語や文章表現に慣れ親しむだけではなく、クラスメイトのことを知り、お互いを理解し、より一層仲良くなってもらいたいと願っている。

アクティビティ① ビンゴゲーム

あらかじめ職業ワードを記入したビンゴカードを使い、友だちにインタビューを行う。書いているワードができればビンゴカードにチェックしビンゴをそろえる。たくさんの人にインタビューする機会が生まれる。

アクティビティ② 職業あてクイズ

先生たちのなりたかった職業を予想する。その後、インタビューをして正解を聞く。興味を持って、予想、インタビューをすることができる。

7. 単元指導計画 【 Lesson 6 】

第1時 Panorama

絵を見ながら職業を表す言葉を注意して聞く。
聞き取った内容を発音する。

第2時 Panorama（ジェスチャーゲーム） / Part 1

どんなことを言っているのか聞く。
聞き取った内容を発音する。

第3時 Part 1 Story (Mary Had a Little Lamb)

どんな話だったのか、どんな言葉が聞こえたのか交流し合う。
聞き取った内容を発音する。

第4時 Part 2 Listen & Talk

どんなことを言っているのか聞き、問題を解く。
聞き取った内容を発音する。

第5時 Unit 3 テスト / Christmas wishes（メッセージカードを書く）

第6時 Part 2 Enjoy Reading

文字を追いながら英語を聞いて、どんなことが書かれているか読む。
聞き取った内容を発音する。

第7時 Part 3 Listen & Talk

どんなことを言っているのか聞き、問題を解く。
聞き取った内容を発音する。

第8時 Lesson6 小テスト / Message for Mr. Dom.

第9時 Write & Talk①

音声を聞いて、聞き取った内容を書く。

第10時 Write & Talk② (本時)

将来就きたい職業を伝える語句や表現を使い、インタビューをする。
つきたい職業を文章で書く。

8. 本時の学習

(1) 目標 将来つきたい職業を伝える語句や表現に気づき、理解して使う。
つきたい職業を学習した表現方法を使い、文章で書く。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点
前時までの復習	<u>単語の復習</u> (体調・月・日・曜日・時間・天気 など)	
インタビュー (話す・聞く)	<u>会話の練習</u> ・英会話フラッシュカードを使って一緒に言う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">What do you want to be ? I want to be a _____.</div> ・先生たちのやりとりを聞く (T 1・T 2) ・近くの席の2人組で練習 ・「勇者」によるペアワークを聞く	リズムよく会話ができるようにする 子どもたちが気持ちよくやりとりできるように声かけをする

<p>(書く)</p>	<p><u>自分の職業をマイノートに書く</u> (P.73)</p> <p>I (want to be a _____.) ()内は、自分で書く</p>	<p>英文の書き方のポイント (ルール)をおさえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文の最初は大文字 ・単語の間は指一本分 ・文の最後にピリオド <p>書くことが難しい子どもには見本を見たり、前時をふり返ったりしながら書くように声かけをする</p>
<p>アクティビティ① (話す・聞く)</p>	<p><u>B I N G O</u>ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ職業を記入した3×3マスのカードを使って、友だちに質問しながら BINGO をそろえていく <p>先生たちのやりとり (T1・T2) →ゲーム開始</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>What do you want to be ? I want to be a _____.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・時間が余ったら、英語で書けなかった単語を辞書などで調べる 	<p>BINGO のカードはあらかじめ準備しておく (単語は英語でなくてもOK)</p> <p><u>必ず英語で聞く</u> <u>答える</u></p> <p>長くなりすぎないように時間配分をする 子どもたちが気持ちよくやりとりできるように声かけをする</p>
<p>アクティビティ② (話す・聞く)</p>	<p><u>ランキング クイズ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇先生のなりたかった職業を予想する (6年生なら・・・、6年生の時・・・) ・その先生にみんなで一緒に聞く <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>S : What do you want to be ? T : I want to be a _____.</p> </div> <p>S : 子どもたち T : 先生</p>	<p>大きな声で一緒に言えるように声をかける</p>
<p>ふり返り</p>	<p>ふり返りシートを書く</p>	

9. 単元目標と評価基準

	単元目標	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
① 聞くこと・話すこと (やりとり・発表)	互いの夢を知り、卒業してからも互いに応援し支え合うために、将来つきたい職業について、何がしたいか、どんなことができるかなど、自分の夢を伝えたり、伝え合ったりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来つきたい職業について伝える語句や表現の意味や働きを理解している。(知識) ・将来つきたい職業について、したいことやできることを伝える語句や表現を用いて自分の夢を伝えたり、伝え合ったりする技能を身につけている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの夢を知り、卒業してからも互いに応援し支え合うために、将来つきたい職業について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、何がしたいか、どんなことができるかなど、自分の夢を伝えたり、伝え合ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの夢を知り、卒業してからも互いに応援し支え合うために、将来つきたい職業について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、何がしたいか、どんなことができるかなど、自分の夢を伝えたり、伝え合ったりしようとしている。
② 聞くこと	ゆっくりはっきりと話されれば、短い話の概要を、イラストを見ながらとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・それまでに学習した語句や文の意味や働きを理解している。(知識) ・それまでに学習した語句や文を用いて、短い話の概要をとらえる技能を身につけている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきりと話される短い話の概要を、イラストを見ながらとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきりと話される短い話の概要を、イラストを見ながらとらえようとしている。
③ 読むこと	自分や相手のこと、身の回りのものに関する事柄について書かれた聞いたことのある簡単な語句や基本的な表現を見て、イラストや音声を頼りにその意味がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・それまでに学習した語句や表現の意味や働きを理解している。(知識) ・それまでに学習した語句や表現を見て、その意味をとらえる技能を身につけている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や相手のこと、身の回りのものに関する事柄について書かれた聞いたことのある簡単な語句や基本的な表現を見て、イラストや音声を頼りにその意味をとらえている。 ・自分や相手のこと、身の回りのものに関する事柄について書かれた聞いたことのある簡単な語句や基本的な表現を見て、イラストや音声を頼りにその意味をとらえようとしている。 	
④ 書くこと	互いの夢を知り合ったり、現在の自分を伝えたりするために、将来つきたい職業や、今の自分を伝えるプロフィールカードを、見本を見ながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・それまでに学習した語句や表現の意味や働きを理解している。(知識) ・将来つきたい職業を、見本を見ながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて書く技能を身につけている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの夢を知り合ったり、現在の自分を伝えたりするために、将来つきたい職業を、見本を見ながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの夢を知り合ったり、現在の自分を伝えたりするために、将来つきたい職業を、見本を見ながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて書こうとしている。

1年生 生活科学習の取り組み

1. テーマ 自然との触れ合い、友だちと過ごす楽しさを感じよう。

2. 取り組み

1学期の「学校たんけん」では校内の色々な教室を見学しながら、それぞれの教室の使い方や廊下の歩き方など、校内で安全に生活する決まりを学んだ。楽しみながら学校のいろいろな場所を知ることによって学校生活が安心でより豊かなものになっていった。

「七夕かざり」では、七夕の由来を知り、短冊に願いを書いて飾った。また天の川などの七夕飾りをつくり、初夏の風情に親しんだ。

「あさがおを育てる」では、植物の成長を継続して観察した。毎日水やりを続けることで、育っていく喜びを感じ、植物を大切に育てる心が芽生えていった。たった一粒の種から長い蔓や葉、たくさんの花が咲きやがて多くの種が取れることを知り、生命の力強さを感じ取った。

「むかしからつたわるあそびをたのしもう」では、自分で作ったかるたを楽しんだり、けんだまやお手玉、あやとりや坊主めくりなどで遊んだりした。身近にあるものを使って遊びを工夫していたむかしの人の知恵を感じた。

「もうすぐ2年生」ではまもなく入学してくる新1年生に向けて、学校紹介ビデオを作成した。1年前の自分たちの、入学にむけての期待感や不安感を思い出し、新1年生が少しでも安心して期待感を持って入学ができるように、と紹介する内容や話し方などを工夫した。

2年生 生活科学習の取り組み

1. テーマ 自然との触れ合い、人との出会いをいっぱい作ろう

2. 取り組み

1学期には、コロナの影響で1年生を案内することができなかったので、カードを作って準備をした。「やさいをそだてよう」では、ミニトマトを育て観察や収穫をした。また、「まちたんけん」では、校区内にある大曾公園を訪れ、スロープや水飲み場などの施設を通して、人にやさしいつくりとなっていることを学んだ。

2学期には、緑地秋探しに出かけ、落ち葉やどんぐりを拾った。拾ってきたものを組み合わせて落ち葉アートを作った。郵便局の見学に行くことができなかったため、郵便局のホームページにある動画を見て、郵便局の中の様子を学習した。そのあと、校内で「さくらづかゆうびんきょく」を開いた。ハガキを出したりもらったりする喜びを感じるだけでなく、集配するしごとの大切さを体験しながら活動することができた。

3学期には、「桜塚ワンダertime」をオンラインで行った。2人1組でクイズやジェスチャーゲームを考え、オンラインで1年生に出題した。初めての取り組みだったが、お互いに楽しい時間を過ごすことができた。1年生にわかりやすいように工夫し練習をしていた。

2月には、学習発表会に向けて各クラスで道具を作り、歌やセリフの練習に励んだ。マスクを着けながらの声出しは大変だったが、一生懸命取り組み、達成感を得ることができた。

3年生 総合的な学習の取り組み

1. テーマ わたしたちの住む豊中

2. 取り組み

1学期には校区を3つに分け、計3回校区探検を行い、自分たちの校区に関心を持つことができた。

2学期には、事務員の土井さんがエチオピアの人達が安全な水が飲めるように、水質調査等を行った様子を聞くことができた。映像を元に、エチオピアのくらしのついて知り、日本の国との違いについて考えた。また、日本民家集落博物館に社会見学に行き、日本各地の代表的な民家や関連民具を見て学ぶことができた。今のくらしとの違いがよく分かり、社会の授業内容の理解が深まった。

3学期は、国語「外国のことをしょうかいしよう」で、タブレットをつかい、それぞれ1つの国について、調べてまとめることができた。

4年生 総合的な学習の取り組み

1. テーマ 環境教育・キャリア教育

2. 取り組み

・「クリーンランド見学」「原田下水処理場見学」

ごみ問題について社会科と総合の学習を通して学んできた。クリーンランドでは、ごみの分別回収やごみのリサイクルについて係の方から話を聞きながら施設内を見学した。下水処理場では、下水がきれいな水になって川に流されるまでの課程を学び、水を大切にすることを教えて頂いた。また、水道局から上水の仕組みの実験キットを借り、家庭や学校まで運ばれてくる水道の仕組みについて学んだ。

・「2分の1成人式」

3月に行った2分の1成人式に向けて、教科横断的に学習を進めた。保健体育で体の成長や、第二次性徴の体と心の変化について、国語科の「言葉のタイムカプセル」では二十歳の自分への手紙を書き、音楽では「十歳の記念日」を歌った。それに加えて総合では、「仕事」について調べた。身近な人へのインタビューや、タブレットを用いて仕事調べていく中で、将来どのような自分になりたいか、又その目標へ向かうために、これからの自分に必要なことなどを考え、まとめた。

5年 総合的な学習の時間の取り組み

1. テーマ 平和学習・伝統文化

2. 取り組み

・豊中空襲について

豊中市にも空襲があったことを、写真や映像などの資料、現在の航空写真などをもとに、実際に空襲の被害があった場所を確認し、具体的に想像しながら知ることができた。豊中空襲を体験した方々の手記をもとに、戦争の恐ろしさや平和の大切さについて考えた。

また、戦争の恐ろしさや平和の大切さを考えるだけでなく、これからの世代の自分たちがどのように受け継いでいくことが大切かについても考えることができた。

・日本の伝統について

国語の学習を元に、日本の伝統についてタブレットを活用して、必要な情報や資料を調べた。また、調べた情報や資料を効果的に活用してまとめることができた。

6年生 総合的な学習の取り組み

1, テーマ 平和学習

2, 取り組み

8月の原爆記念の日に合わせDVD「つるにのって」を鑑賞し、原爆を通し平和について考えた。

国語「ヒロシマのうた」 社会（歴史）「第2次世界大戦・戦後の日本」

今年度は、コロナの影響で広島への修学旅行が中止となり、実際に原爆平和祈念館や慰霊碑を巡ったり、被爆者の方のお話を聞いたりすることもできなかった。そこで、8月にDVD「つるにのって」を鑑賞し、原爆の恐ろしさや戦争の被害の大きさについて学習し、クラスで話し合った。その後、今年度は原爆記念の日（8月6日）に登校していたので、広島での記念式典の生中継を教室で見て、原爆が実際のものであって、今も被爆地では伝え続けられていることを知ることができた。

国語の実際の話に基づいて書かれた教材「ヒロシマのうた」では、話を読み取りながら、戦争の悲惨さや被爆者の方の苦しみなどを学習し、それを通して、平和について考えることができた。

国語の学習に並行して、社会の学習の中で、戦争が起こった時代の世界情勢や戦後の日本の悲惨さを学ぶとともに、平和の大切さについて考えた。

道徳教育研究委員会

1. 研究主題

『深い気づきを促す発問づくり』

2. 研究主題設定の趣旨

昨年度より、授業実践の中でも特に発問に絞り研究を行った。学習指導要領では年間 35 時間の授業を行うこととされているが、一昨年度及び昨年度の実践の反省では 35 時間実施することがなかなか難しいということもあげられた。指導書通りの授業のやりにくさを解決するため、また児童の道徳性をよりはぐくむためには、よりよい発問が必要であると考えた。そこで昨年度に続き今年度も発問にポイントを絞り研究を行う。昨年度の研究成果として<「深い気づきを促す発問づくり」につながる3つのポイント>が挙げられたので、それらを活かしつつ、『深い気づきを促す発問づくり』について研究をしていきたい。

3. 活動内容

(1) 毎月の実践交流。授業での発問とそれに対する反応を交流し、内容（昨年度の研究成果）を参考に
より児童の考えが深まる発問について研究する。

⇒主に、公開授業の授業研究を行った。詳細は(2)。また、各学年の実践についても報告し
交流した。主発問だけでなく、補助発問やふりかえりの際の効果的な声掛けについても考
えた。

(2) 各学年 1 本の公開授業を行う。

⇒4 年生が 1 月に研究授業を、その他の学年が公開授業を行った。公開授業については、事
前に研究委員会で授業内容を検討、授業後は参観くださった先生方からご意見もいただき、
それも参考にしながら実践後のふりかえりも研究委員会でいった。その略案やふりかえり
を紀要に掲載する。

(3) 研修会への積極的参加及び情報共有

⇒今年度は感染症もあり、研修会への参加がかなわなかった。

(4) 道徳教育全体計画の作成。

⇒生活／総合的な学習の時間における【豊かな体験活動】の内容の見直しを行った。

4. 各学年の実践

1年

(1) 普段の実践

小学校での学習が初めてである児童に「道徳を色で例えると何色かな？」と聞くとオレンジ色や黄色などあたたかい色の例えが出たので、自分の思ったこと感じたことを素直に発言できる雰囲気づくりを心掛けた。1学期は文字の学習と並行していたため、感想を書かせるということではなく、授業中の発言などから評価を行った。教科書や教科書の道徳ノートに丸をしたり記号を書き入れたりして楽しんで学習ができていた。2学期からは、意見や感想を書かせ始めた。発言や自分で考えることが苦手な児童は、友達の意見からヒントをもらい自分の意見を書くことができるようになった。3学期頃にはたくさんの児童が自分の意見を持ち、発言ができるようになってきた。さらに、多様な意見があることに気づくこともできた。発問だけでなく、思考の助けとして、役割演技や関係図、場面ごとの挿絵を提示するなどの工夫をおこなった。

(2) 公開授業

●教材名 「はしのうえのおおかみ」(日本文教出版)

●内容項目 B 親切、思いやり

●展開

	児童の学習活動	主な発問と予想される児童の発言
導入	① 優しくしてもらった経験やしてあげた経験について発表しあう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○今までのいいところ探して、誰かに優しくしてもらったこと ・してあげたことはどんなことでしたか？ </div>
展開	② 前半部分の範読を聞く。 ③ うさぎを戻らせて、「えへん、えへん」と言う、おおかみの心の中を考える。 ④ 後半部分の範読を聞く。 ⑤ くまの行動をまねしたおおかみの心の中を考える。 ⑥ くまとの出会いから、おおかみの心の中の変化について考え、伝え合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ○「えへん、へん。」と言ったときおおかみは、どんなことを思っていたのでしょうか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・おれはえらいんだ。 ・いじわるはおもしろい。 ・もっとやりたいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ●うさぎをそっとおろした後「えへん、へん。」と言ったおおかみは、どんなことを思っていたのでしょうか？(中心発問) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前よりずっといい気持ち。 ・気持ちがすっきりした。 ・くまさんみたいにいいことができたぞ。
終末	・おおかみに手紙を書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○おおかみに手紙を書こう。 </div>

(3) 公開授業をふりかえって

登場人物になりきることで、気持ちの理解を深め、発表もしやすくなると考え、活動内容にロールプレイを取り入れた。しかし、多くの先生が参観するいつもと違った環境の中で、緊張もあり、普段と同じようにロールプレイをすることができず、深めることが難しかった。また、個人差はあったが、授業時間内に教材の内容を十分に理解できずにいる児童がいた。そのため、中心発問に至るまでの発問の数も多くなってしまった。児童が教材内容の理解を深めた上で、ゆっくりと考える時間を確保するためにも、発問数を減らし、発問内容をしっかり吟味していくことが重要だと思った。

2年

(1) 普段の実践

- ・四領域に偏りのないように、主に教科書の教材で授業をした。
- ・児童が自分の意見を表現しやすいように、毎回同じ様式のワークシートを使用した。使用したワークシートは授業後にファイルに綴じる形式にした。
- ・中心発問では、一度ワークシートに自分の考えをまとめさせ、数人で交流してから全体に発表させた。
- ・登場人物がそれぞれ、どのような人物なのか・どんなことをしたのかということ挿絵とともに提示した。また、場面や登場人物について整理しやすくするために場面ごとの挿絵を提示するなどした。

(2) 公開授業

- 教材名 『いいところ みつけた』 日本文教出版・内容項目 A 個性の伸長
- ねらい 自分や友達のよいところについて考えるなかで、よいところがみつかるとてもうれしい気持ちになることに気づき、自分のよいところを見つけていこうとする態度を養う。
- 展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	◇指導上の留意点
導入	1. 自分のよいところを考える。	○自分のよいところを思いつきますか？	◇自分のよいところがどのくらい思いつくか聞く。 ◇めあてを知らせる。
(めあて) 自分の よいところを みつけよう。			
展開	2. 資料を範読する。 3. 主人公の気持ちについて考える。 4. よいところをみつけてもらった主人公の気持ちについて考える。	「いいところ みつけた」というお話を読みます。主人公のよいところを探しながら聞きましょう。 ◎掃除に遅れてしまったりえさんは、どんな気持ちでしょう。 ○先生の言葉を聞いてりえさんはどのような気持ちになりましたか。	◇主人公のどんなところがよいのか考えながら聞くように促す。 ★よいところを見つける・みつけれられると嬉しいということに気づく。
終末	5. ふりかえり	○あなたのよいところはどのようなところでしょう。	◇なかなか思いつかない児童には、普段頑張っている教科・趣味・お手伝いなどのエピソードについて書くとよいと、声掛けをする。 ★自分のよいところをみつけようとしている。 (ノート・発言)

(3) 公開授業をふりかえって

終末のまとめで、自分のいいところをワークシートに書かせ、伏せて回収をした。発表したがっている児童もいたため、時間の取れる限り発表する機会を設けたほうがよかった。発表の機会を設けることで、意見の言いやすい雰囲気ができ、なかなか自分のいいところが思いつかない児童への手掛かりになったと思われる。授業を通じて「発表を通して認め合える」雰囲気や集団作りを心掛けていきたい。

3年

(1) 普段の実践

主に教科書の教材を用いて授業を行い、ノートは5mm方眼のノートを使用し、付属の道徳ノートは使用しなかった。領域の偏りがないように意識しつつも、児童の実態に合わせて、自分自身と重ね合わせ、より身近に感じさせられるような教材選びを心がけた。

(2) 公開授業

●教材名 『お母さんの「ふいふい」』 日本文教出版

●内容項目：A 個性の伸長

●展開

	児童の活動内容	主な発問と予想される児童の発言
導入	めあて いいところみつけ名人になろう！ (1) 範読を聞く。	○名人とは何ですか？ ・上手な人
展開	(2) 教材の中の名人をみつけ「わたし」と「お母さん」の行動を振り返る。 (3) 友達のいいところを見つけられるようになるように気を付けることを考える。 (4) ワークシートに追加で友達のいいところを書く。	○お話の中で名人は誰でしょう。 ・わたし・お母さん ○それぞれ誰のどんないいところを見つけたのでしょうか。 ・「わたし」は、だれも気付かなかった加藤さんのいいところを見つけることができた。 ・お母さんは、「わたし」が友達のいいところをみつけられるところがいいところだと、見つけた。 ○いいところみつけ名人になるためのコツは何でしょう？ ・ふだんから、友達のようすをみる。 ・細かいところも見逃さない。 ・友達のことを気にする。 ○「お母さん」や「わたし」のように友達のいいところを見つけましょう。
終末	(5) 本時の感想を書く。	○いいところ見つけの授業を通して、感じたことや考えたことなど感想を書きましょう。

(3) 公開授業をふりかえって

児童の実態を知るために事前にワークシートで、自分のいいところと友達のいいところを考えた。事前に取り組みを行うことで、児童の実態に合わせた発問を考えることができた。

いいところ名人になるためのコツを考えると、〈誰よりも周りの人を見る〉〈自分のいいところのほうが見つかるのが難しかったからこそ、自分のいいところも見つけられるようになりたい〉という意見があった。

授業の後に行った、一日一人のいいところ見つけをする取り組みでは、友達のことをよくかんさつし、友達のいいところをノートに書くことができた。書いてもらった児童は、新たな自分のいいところを知ることができた。

4年

(1) 普段の実践

教科書の教材を使って、道徳の授業を進めた。年間を通して、四つの視点に偏りのない教材編成を心がけた。また、教科書に付属する道徳ノートを使って、授業を実践した。授業を行うにあたっては、物語の内容をクラス全体で共通理解し、そこから、登場人物の心の変化に関わることがらを考えた。その人物になりきって考えるだけでなく、これから自分だったらどのような学校生活を送るかを一人ひとりが考えていった。

今年度のノートには、二つの書く欄があり、一つは教材文に即した質問があり、登場人物の心の変化に関わることがらを児童に考えさせることに用いた。もう一つは、問いの項目が空欄で用意されていた。道徳教科書の文末にある問いかけを引用していたが、こちらで考えさせたいことにつながるように発問を変更する場合もあった。だが、その教材を通して考えさせたい道徳的価値を書かせようとしても、どのような発問にするかが難しかった。今後も、クラスの実態をふまえながら、児童が道徳的価値に迫り、考える意識を高める発問を練っていきたい。

(2) 公開授業について

(3) 研究授業をふりかえって

⇒「4. 研究授業及び事後検討会」を参照

5年

(1) 普段の実践

主に教科書の読み物教材を用いて授業を行った。6月からのスタートということもあり、内容項目が重複するものは飛ばして授業を行った。また、毎年行われている「非行防止教室」を【A 節度・節制】の項目とし、11月には教育実習生による「バリアフリーについて」という授業を【B 相互理解・寛容】の項目とした。普段の授業では、教科書と5mm方眼のノートを主に使用した。道徳ノートは数回使用した児童は（書き込みやすい、自分で書く量が決められる等）といい、方眼ノートの方を好んでいた。発問については、指導書の内容も参考にしつつ、教材で深めさせたい価値について考えられるようにした。例えば、『17. 名前のない手紙』【C 公正・公平・社会正義】では「勇気をもって正義を実現することについて、考えましょう」という導入部を「正義（とは何か）について考える」と変更した。すると、最初はヒーローや正しいことなどといった意見が多かったが、考えた後には「難しいからこそ正義」という言葉が児童から出て、実現することの難しさ、正義を行うことの大切さを感じる児童が増えたことがあった。このように、児童自身が考えの深まりを感じられるように工夫した。

(2) 公開授業

- 教材名 『やさしいユウちゃん』（日本文教出版） ●内容項目 B 親切、思いやり
- ねらい 相手のために考えることが本当の優しさであることに気づき、進んで親切にしようとする心情を育てる。
- 展開

	児童の学習活動	主な発問 ●中心発問 ※補助発問	指導上の留意点 ★評価の観点
導入	①『優しい行動』について考え、ノートに書き、発表する。	○『優しい行動』とはどんなものだと思いますか？ 『優しさ』について考えよう。	
展開	②範読を聞く。 ③見つけたユウコの『優しい行動』を発表する。 ④『優しい行動』に至る気持ちをノートに書き、発表する。 ⑤自分なりに『より優しい行動』だと思うものを選びその理由も考え、ペアで交流する。 ⑥より良い『優しさ』について考えをノートにまとめる。	○お話の中にはどんな『優しい行動』がありましたか。 ○それらの行動はどんな気持ちからでしょう。 ●本当の『優しい行動』とは、どういうものでしょう。 ※本当の優しい行動でないものはありますか。なぜでしょう。 ※相手の様子も考えてみましょう。 ○『よりよい優しさ』とはどんなものでしょう。	・教材中の『優しい行動』を探しながら範読を聞くよう促す。 ・ユウコとハルカどちらの行動かわかるように板書する。 ★導入時の考えよりも、どのような気持ちで相手に接しているかということに気づけている。
終末	⑦ふりかえりをノートに書く。	○今日の学習のふりかえりをしましょう。	・ふりかえりには次のことを書くよう促す。 ①今日新しくわかったこと ②これからの自分に活かしたいこと

(3) 公開授業をふりかえって

「優しい行動」とは「相手のことを考えて行動すること」だと導入時から意見が出ていた。しかし、教材を通じて、相手とは対象となる人だけではなくその周りにいる人たちも含むということや、相手にとって一番いいことを考えて行動することも「優しい行動」をすることになるという考えに至ることができた。しかし、考えが初めの方に固まってしまったので、児童の考えを揺さぶる補助発問ができていないと、より児童の考えに幅や深まりが出ていたのではないかと考える。

6年

(1) 普段の実践

主に教科書の教材を用いて授業を行った。授業では道徳ノートを使用した。授業の中心となる発問と異なっていることも多く、その場合はノートに書かれている発問を変更して書かせた。児童の実態や時期、行事に合わせて教材を選び、4つの領域に偏りがないように3学期間を通して調整した。

『ロレンゾの友達』【B友情・信頼】では、初発問で自分にとっての「友達」について考えさせ、最終発問では「本当の友達」について考えることで深めさせた。教材を読み進めていくにつれて友達の意見を聞きながら優しくだけでなく、時には厳しいことを言えることが友達だと気づかせることができた。

(2) 公開授業について

●教材名 『ロレンゾの友達』 日本文教出版

●内容項目 B 友情、信頼

●展開

	児童の学習活動	主な発問と予想される児童の発言
導	(1) 「友達」について話し合う	○どんな人が友達と言えますか。
展開	(2) 「ロレンゾの友達」を読んで話し合う (3) それぞれの立場になって考える	※ロレンゾとアンドレとサバイユとニコライは幼馴染であることを伝えて判読する ○自分ならだれの立場の気持ちになる？ アンドレ・何か事情があるかもしれない ・逃がしたら自分が捕まるかもしれないけど友達やし… サバイユ・悪いことを伝えることも友達の役目 ・言うけど友達だから本人の気持ちを優先する ニコライ・悪いことを伝えることも友達の役目・本人のためにならない ○酒場を出た後の3人が話したことを口にしなかったのはなぜか？ ・疑ったことを知られたくない・罪悪感・知らせて傷つけない ◎もしもロレンゾが木の下で話し合った内容を知ったら3人のことを本当の友達だと思うのか 本当の友達 ・自分のことを思ってくれたから・友達だからこそ悩んで出してくれた答えだから友達ではない ・信頼してくれなかった・友達なんだったら隠さずに全部話してほしかった
終末	(4) “正義の人”について自分の考えを書く。	○ 正義の人とは、どんな人が自分の考えを ・困っている人を助けようとする人。 ・誰に対しても誠実に接する人。 ・自分が正しいと思うことを信じて行動しようとする人。

(3) 公開授業をふりかえって

- ・初発問と最終発問をつなげることで深まりをもたせるように心がけた。
- ・黒板に名前シールをはるることによって一人ひとりの考えを共有することができた。
- ・本文中の人物ではなく、自分や周りの友達に置き換えて考えた方が更に深められたと思う。

5. 研究授業及び事後検討会

(1) 研究授業指導案

第4学年 道徳科学習指導案

指導者 下山 通広

1. 日時 令和3年(2021年)1月 27日(水) 6時限(14:20~15:05)

2. 学年・組 4年1組 37名(男子20名 女子17名)

3. 場所 図工室

4. 主題名 分けへだてなく 【C 公正、公平、社会正義】

教材名 「いじりといじめ」

(出典:「しょうがくどうとく いきるちから 4年」日本文教出版)

5. ねらい

いじりといじめについて考え、いじりはいじめにつながることに気づき、誰に対しても分け隔てせず相手を大切にしようとする心情を育てる。

6. 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

本教材を通して、自分たちが普段何気なくしている「いじり」という行為について振り返ると共に、時には「いじり」が、相手の心を傷つけたり「いじめ」につながったりする行為であることに気づかせたい。

その際に、どのような「いじり」が「いじめ」につながるのかを子どもたちに考えさせることによって、「相手がその行為をどのように受け取っているか」が判断の基準になってくることに気づかせることが重要である。相手の気持ちを考えるということは、4年生までの学習や、日々の生活や指導の中で言われてきている。自分だったらどうかという置き換えもしてきているが、「人によって感じ方が違う」というところには至っていない児童が多い。また、自分と相手という限定された人間関係だけでなく、クラスメイトなどの周囲の人間がどのように見て感じているかといった見方にも気づかせたい。そうして、「自分の価値観や見方だけにとらわれず、相手や周りの人の気持ちをよく想像して、分け隔てなく大切にする」という心情を育てたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、男女仲良く学校生活を過ごしている。道徳教材「交換メール」では、自分たちの学級のよさを考えた際には、「協力する・友だちを大切にする所」といった意見などが出ていた。実際クラスの中で、教え合ったり、困っている友だちに声を掛けたりする姿が見られる。友だちを大切しようという意識が強い児童が多いので、ケンカなどは少ない。

しかしその一方で、授業の時間が始まって遊んでいる友だちに声を掛けるといった、相手のよくない行動に対して注意することが苦手な一面が見られる。今後、児童たちは成長するにあたり、集団の結びつきが強くなり、自分たちで主体的に学校生活を過ごすことになる。その際、友だちとの関係で問題に直面する場合も考えられる。そこで、本教材を通して、何気ない会話の中で、いじりをしていることがいじめにつながることをおさえたい。そして、今後の学校生活で、一人ひとりが受け身にならず、自分が見ておかしいと思った行為には自分から声を出して、友だちを思いやれる行動をとれるようになって欲しいと考える。

(3) 教材について

本教材では、何気ない普段の生活の中で起きた「いじり」の場面が取り上げられている。相手を傷つけたわけではない「しょうだん」だというげんきくんと、自分だったらいやだと感じ、「いじめ」ではないかというみかさんの主張をもとにして、「いじり」と「いじめ」のちがいについて児童に投げ掛けている。この教材を通して、「いじりといじめ」のちがいについて考える中で、相手がどう思うかが大切であり、また人によっていやだと感じる基準がちがうことに気づかせたい。

しかし本学年の児童には、これまで「いじり」や「いじめ」について指導する機会がなかったため、「いじり」や「いじめ」に対する児童の認識を教師があまりつかめていなかった。そこで、より児童の実態に沿った授業を行うために、事前に「いじりといじめ」について児童がどのように考えているかのアンケートを取った。アンケートの結果、「いじり」がなにかわかっていない児童や、「いじりといじめ」を混同している児童がいるなど、認識の個人差があることがわかった。

この結果を踏まえて、直前の授業で、「遠足の朝」という教材を使って、「いじめられている人が、いじめと感じたらいじめである」ということを学習した。その学習に続く本教材では、普段の他者とのやり取りにおいて、「相手がどう思うかが大切であり、また人によっていやだと感じる基準がちがうこと」に気づかせたいと考える。

7. 評価

- ★相手がどう思うかが大切であることに気づいているか。(プリント・発言)
- ★人によっていやだと感じる基準がちがうことに気づいているか。(プリント・発言)
- ★いじりはいじめにつながることに気づいているか。(プリント・発言)

8. 本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応 ◎中心発問 ○発問 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ★評価の観点
	(めあて) 「いじり」と「いじめ」について考えよう		
導入	1. 資料を範読する。	<p>「いじりといじめ」という話を読みます。どこが「いじり」になるか考えながら聞きましょう。</p> <p>○この話の中で、どこの部分が「いじり」に当たるのでしょうか？</p> <p>・まさるくんが、先生に聞かれたこととはぜんぜんちがうことを答えました。</p>	◇教室内で起きた出来事の中で考えさせる。
展開 1	2. 資料の内容を共通理解する。	<p>○まさるくんへの「いじり」に対して、みかさんとげんきくんは、何と言ったでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・みかさん</p> <p>・まちがったのがおもしろかったら笑っていいの？</p> <p>・まさるくんが気にならなくても、わたしは気になるよ。</p> <p>・まさるくんは、笑われて、ほんとうにいやじゃなかったのかな。</p> </div>	◇みかさんとげんきくん二人のセリフの中から重要となるところを抜き出させる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・げんきくん ・だっておもしろかったんだもん。 ・まさるくんは気にしてないよ。 ・まちがってもみんなにうけたんだし。気にするほどじゃないよ。 ・仲がいいから、じょうだんだって、おたがいわかっているんだ。 	<p>◇まさるくんがどう感じているかがはっきりと書かれていないので、「いじめ」かどうかが明確でないことに気づかせる。</p>
展 開 2	<p>3. ワークシートに自分の考えを書く。</p> <p>4. 全体で意見を交流する。</p>	<p>○自分がまさるくんだったら、「いじめ」と思うのか、「いじめ」と思わないのか、どちらでしょう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」だと思う <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったらいや。 ・本当はいやだけど、がまんして笑っている。 ・大人数に笑われるのはいや。 ・「いじめ」だと思わない <ul style="list-style-type: none"> ・自分は笑われてもいやじゃない。 ・笑ってもらったら、失敗がきにならない。 ・仲のいい友だちならべつにいい。 ・「いじめ」と思うときもある。 	<p>◇児童に、どちらの考えかを挙手させて、どちらのとらえ方もあることに気づかせる。</p> <p>◇どんな「いじり」も許される「いじり」なのか、どんな「いじり」も「いじめ」になるのかと問い、どんな「いじり」が「いじめ」になるのか考える。</p>
展 開 3	<p>5. ワークシートに自分の考えを書く。</p> <p>6. 全体で意見を交流する。</p>	<p>◎どんな「いじり」が「いじめ」になると思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじられている人がいやだと思ったら「いじめ」になる。 ・大人数でいじると「いじめ」になる。 ・しつこく何回もいじられると「いじめ」になる。 ・自分ではどうにもできないこと（体型や家庭事情など）をいじると「いじめ」になる。 ・苦手なことをいじると「いじめ」になる。 <p>「人によっていやだと感じる基準がちがう」</p>	<p>◇どんなことが「いや」なのか具体的に書かせる。</p> <p>◇人数や、回数、どうにもできないことや苦手なことは人によって違うことに気づかせる。</p> <p>★相手がどう思うかが大切であることに気づいているか。（プリント・発言）</p> <p>★人によっていやだと感じる基準がちがうことに気づいているか。（プリント・発言）</p>
終 末	<p>8. ふりかえりをワークシートに書く。</p>	<p>○これからの生活で気を付けたいことや、授業の中で印象に残ったこと、考え方が変わったところを書きましょう。</p>	<p>★相手がどう思うかが大切であることに気づいているか。（プリント・発言）</p> <p>★人によっていやだと感じる基準がちがうことに気づいているか。（プリント・発言）</p> <p>★いじりはいじめにつながることに気づいているか。（プリント）</p>

(2) 事後検討会にて

●授業者、学年より

4年生では、大きなトラブルもなく、今までいじりといじめについて話す機会がなかった。そのため児童の実態を知るために、事前にいじりといじめのアンケートをとった。アンケートをもとに教材を使い、いじりといじめの違いを伝えた。

また、より理解を深めさせるために、事前指導として「遠足の朝」を行い、いじめについて考え本時をむかえた。

いじりといじめについて各クラスで人数の差を感じたが、どのクラスでも人によって同じことでも感じる基準が違うという考えに結び付けた。

いじりはあっても、いじめがない学年だからこそ、授業において改めて子どもの実態を知ることができた。

6. 研究の成果と課題

成果

- ・ 毎月、公開授業に向けて、発問づくりを行った。その結果、昨年度の3つに加え、次のことが「深い気づきを促す発問づくり」につながることがわかった。

～深い気づきを促す発問づくりをするために～

- ① ねらい(せまりたい価値)をしっかりと持ち、児童の思考がそこに向かうような発問を考える。
- ② 発問だけでなく、思考の助けとして、役割演技やペアでの話し合いも効果的である。
- ③ 授業の最初と最後に価値についてどう考えているかを問う発問を行うことで、児童の思考の深まりがわかる。また、児童自身も授業で考えが深まったことがわかりやすい。
- ④ 児童の実態把握をしたうえで発問を工夫すると、より児童の考えが深まる。
- ⑤ ふりかえり時には「気づいたこと、自分や友だちの意見でよかったと思うもの、価値についての自分の考え、自分の考えが変わったところなど」について書くよう促すとよい。

- ・ 各学年公開授業を行い、実践事例とそのふりかえりを残すことができた。
- ・ 「道徳教育全体計画」の生活／総合的な学習の時間における【豊かな体験活動】の内容を見直した。

課題とその対応

- ・ 道徳教育年間計画において、各教科との関連について見直す。また、各学年の年間指導計画を作成が不十分なので、教科書内の読み物教材だけではなく、他教科や特別活動等で置き換えられる項目について整理したい。
- ・ 「深い気づきを促す発問」作りのポイントは整理できた。そこで、次年度はさらに児童の考えを深めるべく、どのような板書をすると児童の理解や考えをさらに深めることができるのかについて研究していきたい。そこで次年度の研究主題は「考えが深まる板書づくり」にしたい。

7. 来年度に向けて

- ①研究テーマ『考えが深まる板書づくり』
- ②評価の文例の整理
- ③道徳教育全体計画（各教科との関連）・各学年の年間指導計画の作成
- ④夏季研修会の実施

<p>【児童の実態】 素直で活発な児童が多い。何事もまじめに取り組むことができるが、自分で考え主体的に行動することが苦手である。</p>	<p>【学校教育目標】 人間尊重の精神を基盤とした民主的で創造性にとんだ心身ともに健康で、命の大切さがわかる人間性豊かな児童を育成する。 【めざす子ども像】 ○深く考える子 ○心豊かな子 ○たくましい子</p>	<p>【教育目標の基盤】 ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領 ・豊中市教育指導要項 ・大阪府人権教育基本方針 ・豊中市人権教育基本方針 ・豊中市障害児教育基本方針 ・豊中市在日外国人基本方針</p>
<p>【地域の実態】 学校の行事には、協力的。子供会など、地域でのつながりは希薄。昔からこの地域をよく知る人は半数ほどである。</p>	<p>【道徳教育の目標】 人間性豊かで、実践力のある子どもを育てる。</p>	

道徳教育の視点と学年別重点目標			
学年	低 学 年	中 学 年	高 学 年
自分自身に関する事	よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	正しいと判断したことは、自信を持って行うこと。	自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。
他の人とのかかわり	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。
自然や崇高なもののかかわり	先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。	先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。	先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってより良い学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中で自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
集団や社会とのかかわり			よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じることを。

道 徳 の 時 間
<ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動をとおして行う道徳教育を補充、深化、統合する時間として計画的、系統的に指導する。 ・各学年の重点目標を踏まえ、児童一人ひとりの道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的態度と実践意欲の向上を図る。 ・自己を見つめ、価値の内面化を図るために多様な価値観を引き出す授業の工夫をする。 <p>例) 効果的な資料の選択と活用、資料提示の工夫、自然体験活動など体験活動を生かした授業の工夫、ゲストティーチャー</p>

各 教 科	生活／総合的な学習の時間	特 別 活 動
<p>国語 生命を尊重し、他を思いやる心や美しいものに感動する心を育てる。</p> <p>社会 社会の一員としての自覚や民主的、平和的な社会の形成者としての基礎を養う。</p> <p>算数 筋道を立てて考え、学んだことを生活に生かそうとする態度を育てる。</p> <p>理科 自然のすばらしさや不思議さを知り、自然や動植物を愛する豊かな心を育てる。</p> <p>生活 自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもたせ、自立への基礎を培う。</p> <p>音楽 音楽的心情と感性を育て、豊かな情操を養う。</p> <p>図工 表現や鑑賞を通して豊かな情操を育て、粘り強く作品を仕上げる態度を育てる。</p> <p>家庭 家族の一員として家庭生活をよりよくしようとする実践的態度を育てる。</p> <p>体育 健康安全に対する知識を身につけ、協力や公正、公平の態度を育てる。</p>	<p>自然体験活動など体験活動を生かした道徳教育の推進 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 学び方やものの考え方を身につけさせること、及び問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育てることをとおし、自己の生き方を考えることができる児童の育成を旨とする。</p> <p>【豊かな体験活動】 豊かな心を育てるため、人、物、自然とのふれあいのある豊かな体験の場を充実させる。</p> <p>(1年) 地域とのふれあい(幼保交流、敬老の集い) (2年) 昔遊び体験・さくらづか郵便局 (3年) 民家集落見学 (4年) クリーンランド見学 (5年) 林間学舎宿泊体験 (6年) 修学旅行平和学習 など</p>	<p>望ましい集団活動をとおして、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>【学級活動】 仲間と共に力を合わせ活動することにより、学級や学校生活の充実と向上を図り、協調性や思いやりの心を育てる。</p> <p>【児童会活動】 集団の一員としての役割を自覚し、温かい人間関係を築こうとする態度や集団の中で自己を正しく生かす能力の育成を図る。</p> <p>【クラブ活動】 共通の興味関心を追及する活動をとおして、豊かな個性と温かな人間関係を育てる。</p> <p>【学校行事】 主体的に参加させることにより、集団への所属感を深め、規律性、協力的、責任感、勤労意欲等を育てる。</p>

教科教育研究委員会

1 研究主題について

基礎学力を身につけ、学習意欲を持つ子どもの育成
—学力の基礎・学習の構えを基盤とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す—

- * 学力の基礎 . . . 話す・聞く・読む・書く・計算・視写・漢字など。
- * 学習の構え . . . 「学習中は次のことを守りましょう」を参照

2 研究主題設定の主旨

上記の研究主題のもと、昨年度は、学力の基礎・学習の構えを基盤とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す取り組みを進めた。2・4・6年生の国語科で計3回研究授業を行い結果、自分の考えを整理し、伝え合うといった対話的活動を授業の中で展開した結果、さまざまな意見があることに気付いたり、他人の意見と自分の意見を比べて相違点を見付けたり、自分の考えを見つめなおそうとしたりする児童の姿が見られた。

一方で、自分の意見を他人に伝えるのが難しかったり、他の意見に流されてしまったりして、自分の考えを深めることが難しい児童もいた。さらに教材の内容理解の深まりにも個人差があるなどの課題が見えた。

また昨年度は、深まりを評価することが難しいという課題もあり、学校としてどのように指導・評価していくかの基準となるものが必要と考え、新指導要領における国語科の内容項目【C読むこと】を整理し、学習の深まりの観点として細かく段階をつけて表にまとめた。今年度も、引き続き教科を国語科にしぼり、書いたり話したりする学習活動を通して研究を進め、学習の深まりの観点をまとめた表の作成を行っていく。そして、授業を行うときや評価をするときの手がかりとなるように研究を進めていきたい。

また、学力保障の一環として、昨年度から引き続き学力の基礎・学習の構えを基盤とした研究を進めるため、週に二日朝学習の時間に基礎・基本の定着に繋がる活動を実施していく。

学習指導要領における国語科の指導内容をもとに、昨年度から引き続き「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。そしてこのような深い学びが国語科だけにとどまらずその他の教科、学習活動においても実践されるように推進していきたい。

3 研究のまとめ

「基礎学力を身につけ、学習意欲を持つ子どもの育成」という研究主題のもと、昨年度から引き続き、学力の基礎・学習の構えを基盤とし、「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指す取り組みを進めてきた。

「基礎学力を身につけ、学習意欲を持つ子どもの育成」については、これまでの取り組みから、意欲的に学習に取り組むことができる児童も増えてきたと考える。各学年で朝学習の時間等を用いて、計算や読むこと、漢字の学習などに取り組んできた。しかし、今年度はパワーアップタイムや朝学習公開を実施することができず、学年や学級での取り組みに差ができてしまった。基礎学力の定着に関しても、個人差が大きいと感じる。また、学力診断テストが実施できていないため、子ども一人一人の実態の把握も十分にはできていない。

「主体的・対話的で深い学び」については、今年度も系統性のある指導の方法や評価について共通理解を図るため、深まり表の作成を行った。

今年度は、2年生の国語科（物語文）での研究授業を行ったが、その際、昨年度作成した中学年の

深まり表を参考に、低学年として目指す児童の姿を設定して授業の検討を行うことができた。そして、児童が考えを持ち表現しやすいよう、ワークシートなど手立てを工夫して授業を行った。その結果、つけたい力が中学年の目標に到達した児童もいた。

各学年においても、子どもたちが書いたり話したりする学習活動を通して自分の考えを整理し、伝え合うといった活動を積極的に取り入れ、さまざまな意見を聞きながら、自分の考えを見つめなおそうとする姿も見られた。

その一方で、自分の意見を他人に伝えるのが難しかったり、友だちの意見に流されてしまったりして、自分の考えを深めることが難しい児童もいた。深い学びにつながっているかという点においては、まだまだ個人差があることが課題である。

④ 研究の内容と方法について

①学年に応じた基礎学力の内容の確認

②基礎学力定着のための教材と指導法の工夫

※学習の構え・・・「学習中は次のことを守りましょう」プリント

- ・ 学習の構えについては、教科教育研究委員会で検討した結果、次年度も引き続き継続していく。
- ・ 「学習中は次のことを守りましょう」のプリントを作成。
- ・ 各クラス共通理解の上で教室掲示をする。
- ・ 学年会などで、具体的指導の交流を図る。
- ・ 教材教具を有効に活用する。

※基礎基本の学習

「読み・書き・計算」の復習を繰り返すことなどを含め、基礎基本の学習の定着に繋がる活動を実施する。来年度も、月曜日と金曜日の朝学習の時間を基礎基本の学習の時間として設け、子ども達の学習意欲の向上に発展させていく。

③朝学習授業公開 今年度は中止

(目的)「読み・書き・計算」の基礎・基本の定着を図り、子ども達の学習意欲の向上に発展させていくとともに、他学年児童の実態を知る。

- ・ 木曜日の読書タイム時（8：30～8：45）に、公開を設定する。基本的には第一、第三の木曜日
- ・ 研究授業（公開授業も含む）をしたクラスは省く。
- ・ 公開の学習内容は、主に「読み・書き・計算」の復習として実施する。

④学力保障

1、「朝学習の時間」の実施

(目的)

- ・ 「読み・書き・計算」の基礎・基本の定着を図り、子ども達の学習意欲の向上に発展させていく。

(方法)

- ・ 「読み・書き・計算」を中心に継続的に行うことで、基礎・基本の定着を図る。
- ・ 単元の学習にあわせた内容を設定する。

2、「国語科学力診断テスト」の実施 → 今年度は中止

(目的)

- ・ 国語科における児童の実態を調査し把握する。
- ・ 結果を分析し、学級担任がより効果的な支援の方法を追究できるようにする。
- ・ 実態を把握し、学力保障をすすめていく。

(方法)

- ・前学年までに履修した問題を実施。(5.6年生)
- ・6月末までに実施
- ・全職員で採点を行う。
- ・1学期中に採点を行い、夏季休業中に係が結果をデータ化・分析する。実態を把握することで2学期以降の指導に生かしていく。
- ・来年度実施して、今後実施学年を増やしていくか検討する。

3、「パワーアップタイム」の実施 → 今年度は中止

(目的)

- ・学習理解の不十分な児童の学力の向上を図る。

(方法)

- ・学期に一度、「学力保障の日」を設定する。(金曜日の6時間目 クラブ・委員会のない日)
- ・対象学年・・・全学年
- ・対象児童・・・学習理解の不十分な児童、残って学習したい児童
- ・指導者・・・各担任(担外、少人数指導は所属学年の指導に参加する。)
- ・場所・・・各教室(学年で一教室実施も可)
- ・下校指導・・・下校方面ごとにグループを組み、ある程度の場所まで付き添って下校。
- ・指導内容・・・各学年で相談、決定

4、課題提示の明確化

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、課題の提示をきちんと行うことで、一人ひとりが目的意識をもって、主体的に授業にいどめるようにした。

5、ノート指導の充実

自分の考えを、式・図・文章等で表せるように、ノート指導に力を入れて取り組んだ。

6、基礎学力づくり

基礎計算の力をつけるように、授業最初や朝学習の時間を活用して、計算の習熟をはかった。

⑤国語科の研究授業及び研究討議

実施月：10月(2年生吉川先生)

- ・研究授業の形態として、校内1本(今年度に限り)とした。また、初任研は別枠研究授業とした。
- ・学習指導案は、研究授業1週間前には、全職員に配布する。
- ・全体研修会では、研究討議係(中井・吉川)が中心になって、討議の柱を設定した。討議の柱を設定することで、意見交流を活発にし、議論を深めることができた。なお、討議の柱は研究授業前(学習指導案作成前後)に研究討議係が、教科教育研究委員会・研究授業学年団と打ち合わせを行い進めていった。さらに、研究討議係が全体研究会の司会・記録を行った。

5 年間研修計画

月	日	曜	課題研究	研究形態
4	2 13	木 月	課題研究共通理解と検討(研究主題の主旨・内容・計画・組織)	委員会研修
6	4 24	木 水	研究授業の実施方法 学力テストについて 研究全大会	委員会研修 全体研修
7	14	火	研究授業、実践報告についての検討	委員会研修
9	11	金	研究授業、実践報告についての検討 事後研について	委員会研修
10	7 28	水 水	研究授業、実践報告についての検討 事後研について 研究授業(2年3組)	委員会研修 全体研修
11	6	金	来年度の研究テーマについて 研究授業のふりかえり 深まり表の検討	委員会研修
12	1	月	深まり表の検討	委員会研修
1	12	火	深まり表の確認 次年度の研究テーマについて 全体会・紀要について	委員会研修
2	9 17	火 水	全体会・紀要について 来年度の教科教育の研究主題について 年度末反省 研究のまとめ(今年度の成果と来年度への課題)研究全大会	委員会研修 全体研修

6 来年度にむけて

来年度、学校の研究主題が変更することを受け、本研究委員会も研究主題の変更を行った。研究内容を明確にするために来年度の研究主題を以下のように設定した。

国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現

この主題のもと、まずは国語科の内容項目【C読むこと】を深めるために作成している「深まり表」を完成させ、系統性のある指導と評価についての規準となるものを示したい。

また、基礎学力の定着、学習意欲を持つ児童の育成にむけての取り組みは、すべて来年度も継続していく。今年度コロナ禍において実施できなかった項目についても、来年度実施していきたい。

今年度の成果と課題をいかして新しい研究主題の元、より一層国語科の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、研究を進めていきたい。

7、教科教育研究部会の役割分担

- ・代表 丹下
- ・小中連携 中井
- ・研究討議係 中井・吉川
- ・朝学習・パワーアップタイム 勝部・瀬村
- ・学力保障・学力診断 松尾・西村・中井・吉川

各学年の研究のまとめ

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
取 り 組 み	<p>物語文の読み取りでは、最初に感想や気に入った場面、セリフをノートに書いて交流した。自分の考えを発表しやすいように、挿絵に吹き出しをつけて書く活動を取り入れた。友だちの考えをきいて、自分の考えをふりかえる時間も設定した。</p> <p>また、気持ちメーターや心情曲線をつかって、中心人物の気持ちの変化を読み取る活動もおこなった。</p> <p>さらに、自分の考えの根拠となる理由を、中心人物の行動や言葉から探し、発表することにも取り組んだ。</p>	<p>物語文の読み取りでは、主にワークシートを活用し、登場人物の気持ちや自分の考えを自由に書き出す活動に取り組んだ。ワークシートに書いた内容を、少人数のグループで共有し、その後、学級全体で交流した。「ニャーゴ」の学習では、「気もちメーター」を活用し、登場人物の気持ちを想像し、数値化する活動を行った。また、自分の考えに理由を添えて話すことにも取り組んだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の中で、登場人物の気持ちや考えていることを想像し、ノートや吹き出しに書いて交流した。発表に出なかった他の意見を、教師が紹介した。 ・自分の考えや、その理由をノートに書く活動を多く取り入れた。 ・物語文を要約して作った文章、絵を見て物語を作った冊子、俳句を掲示し、交流した。 	<p>自分の考えや意見をノートやワークシートに書き、自分の考えを整理してから全体で共有する活動を行ってきた。</p> <p>「走れ」の学習では、登場人物の気持ちを気持ちグラフに表し、登場人物の気持ちの変化を考え、その理由について交流をした。</p> <p>「ごんぎつね」の学習では、登場人物の兵十とごんの関係について考え、ごんが撃たれたその後について想像して書き、共有をした。</p> <p>その後、それぞれの考えに対しての良さや、感想を伝え合った。</p>	<p>どの教科においても、自分の考えを持ちノートにまとめることを意識して取り組んできた。教材との対話を通して自分の考えを持ち、他者との対話を通して自分の考えと他者の考えを比べ、広げたり深めたりする活動をおこなってきた。</p> <p>注文の多い料理店では、扉に書かれた言葉を紳士の捉え方と山猫の考えを比較しながら読み進め、表現の工夫に注意しながら授業を進めてきた。最後の活動として、グループにわかれ物語の面白さを伝える本の帯を作成した。</p> <p>大造じいさんとガンでは、教材との対話を通して朗読で自分の思いを表現することに取り組んだ。</p> <p>問題を解決するために話し合おうでは普段の自分たちとの対話を通して、課題を設定し、自分との対話で意見を持ち、他者との対話で、考えを深める活動をおこなった。</p>	<p>今年度は感染予防の対策のため、ペアでの話し合いやグループでの話し合いなどはなかなか行うことはできなかった。したがって、授業での全体発表の中で意見や考えを出し合い、共有し、その中で出てきた考えをよりよいものにするための話し合い活動を行った。</p> <p>【他者との対話】</p> <p>教科にかぎらず、その時間のめあてのようなものをできる限り提示し、ノートなどに自分の考えを整理し、まとめる活動を行ってきた。ただ、漠然と頭に思い描くのではなく、文章として見ることで、自分の考えであっても客観的に見直すことができた。また、自分の考えに自信がない子どもでも、文章に書くことによって発表がしやすくなった様子も見られた。</p> <p>【自分との対話】</p>
成 果 と 課 題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えに共感したり、似ているところや、違うところを見つけ、交流したりすることができるようになった。 ・ノートに挿絵をはって、吹き出しをつけて自分の考えを書くことで、自信をもって発表することができるようになった。 ・友だちの考えに共感し、書き足すことができるようになった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書いている、発表しない児童がいるので、考えを価値づける手立てが必要である。 ・自分の考えや気持ちを表す語彙の数を増やす。 	<p>ワークシートを活用することで、書くことが苦手の児童も、形式に捉われず、積極的に書こうとする姿が見られるようになった。挿絵や本文の内容を基に、登場人物の気持ちや様子を具体的に想像し、他の児童の考えを知ること、自分の考えとの相違点に気づいたり、さらに想像を広げたりすることができるようになった。</p> <p>「気もちメーター」で、登場人物の気持ちの強さを数値化して表すことで、他の児童の考えと比較した。また、その理由をワークシートに書いて発表することで、同じ意見であっても、理由に違いがあることに気づくことができたが、自分自身の考えを見つめ直したり、さらに深めたりすることには課題が残った。</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの意見に関心を持つ児童が多く見られた。意見が違ったときには、互いの考えを交流し、その根拠を本文から見つけることで、考えを深めることができた。 ・ノートや吹き出しに書いたことを交流することで、発言することができるようになった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書こうとする意欲はあるが、僅かな量しか書けない児童や、恥ずかしさから発表をしなかったり、作品を見せたがらなかったりする児童も見受けられる。個別の指導や励まし、価値付けた褒め方をする等の支援が必要である。 ・話し合いの中で、友だちの意見を聞くことができるが、自分と違う意見に共感しにくい児童も見られる。 	<p>自分の意見や考えをノートやワークシートに整理する活動を行うことによって、自分の考えを持つことができるようになった。自分の考えを共有し、他者の考えを聞くことによって、自分と他者の考えの違いを比べ、他者の意見の良さに気づくことができるようになった。</p> <p>考えや意見を共有することによって、新たな考えを生み出すことができる児童が増えてきたが、対話的活動を通じた深まりに個人差があり、児童全員が深い学びにつながっていない。また、自分の意見や考えを書くことや、他者の考えを聞くことはできるが、交流を活発に行えない児童もいる。</p>	<p>初めの頃に比べると、どの教科においても自分の考えを持ち、教材やグループ活動をして友だちと対話することで、自分の考えを深めノートに表現したり、発言したりすることができるようになってきた。しかし、全体で共有して自分の考えを、深めたり広げたりすることに関しては、児童によって個人差があり、これからの課題であると感じた。</p>	<p>ノートなどに自分の考えを書き出す活動を繰り返し行ってきたことで、自分の考えを持ち、文章に表すことへの抵抗は少しずつ減ってきた。自分の考えを持つことができ、その考えを「見える化」することにより、話し合いの中で活発に意見を出し合える場面も増えてきている。しかし、まだ、限られた児童の発言が多く、出てきた意見・考えから広がり見せていくような話し合いや、比較・検討しながら考えを深めていく活動が難しい場面もあった。また、単元ごとに学習した内容を次の単元や、違う教科につなげていくことがなかなかできない児童もいた。よりよい考えを見つけ、学習した内容をさらに次へいかしていくといった力をつけていくことが今後の課題である。</p> <p>また、子どもが自分の考えをしっかりと持ち、自信を持って発表し、その中から深まりのある学習活動がスムーズに行われるためには、教師の発問や指導の展開方法などの工夫も必要と感じた。</p>

各学年の研究のまとめ

【思考力・判断力・表現力等】C読むこと 文学的な文章についての項目

低	構造と内容の把握 イ場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえること。	中	構造と内容の把握 イ登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	高	構造と内容の把握 イ登場人物の相互関係や心情について、描写を基に捉えること。
	精査・解釈 エ場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。		精査・解釈 エ登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。		精査・解釈 エ人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
	考えの形成 オ文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。		考えの形成 オ文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。		考えの形成 オ文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
	共有 カ文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。		共有 カ文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。		共有 カ文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えをまとめること。

深まり表

イ	1. 場面の様子や登場人物の行動など、本文や挿絵をもとに捉えること。	中	1. 登場人物の行動や気持ちなどについて本文の段落や場面から読み取ること。	高	
	2. 場面の様子や登場人物の行動など、を捉えること。		2. 登場人物の行動や気持ちなどについて本文全体を見通して、読み取ること。		
エ	1. 場面の様子や挿絵に注目して、登場人物の行動を豊かに想像すること。	中	1. 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について具体的に読み取ること。	高	
	2. 場面の様子や本文に着目して、登場人物の行動の理由を具体的に思いがきながら豊かに想像すること。		2. 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わり結び付けて具体的に読み取ること。		
オ	1. 文章の内容に対して、感想をもつこと。	中	1. 文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えを持つこと。	高	
	2. 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。		2. 文章を読んで理解したことに基づいて自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えを形成すること。		
	3. 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想や考えをもつこと。		3. 文章を読んで理解したことに基づいて自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えを形成することができ、疑問点や知りたい点を見出すこと。		
カ	1. 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	中	1. 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などの違いに気づくこと。	高	
	2. 文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、一人一人の感じ方などの違いがあることに気付く。		2. 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などの違いに気づき、自分の考えを広げること。		

1. 日時 令和2年10月28日(水) 第6時限 14時20分～15時05分

2. 場所

3. 学年・組 第2学年3組(32名)

4. 単元名・使用教科書

単元名:「ニャーゴ」 宮西達也

教科書:東京書籍 上

5. 単元目標

人物の行動や気持ちを具体的に想像し、想像したことを音読で表すことができる。

6. 教材観

本教材「ニャーゴ」は、子ねずみたちを食べようとするねこのたまが、そうとは知らずに無邪気にたまに優しく接する子ねずみたちと出会うことで、気持ちに変化していく物語である。本文では、「ニャーゴ」というねこの台詞が、3つの場面に出てくる。場面ごとに、「ニャーゴ」に込められた、ねこの気持ちや様子の変化を追うことで、本文全体を通しての子ねずみに対するねこの気持ちの移り変わりが捉えやすくなっている。一方、子ねずみたちのねこに対する好意的な気持ちは、物語の最初から最後まで一貫しており、変化していない。ねこと子ねずみたちの、相手に対する気持ちの違いに着目することによっても、揺れるねこの気持ちを読み取ることができる。また、本文だけでなく、挿絵からも、ねこの様子や、気持ちの変化を読み取ることができる。

7. 児童観

本学級の児童は、明るく元気で活発な児童が多い。発表にも積極的で、たくさんの児童が手を挙げるが、自分の思ったこと、感じたことなどを話すことに対しては消極的な面もある。また、「どうしてそう思ったのか。」など、理由や根拠を挙げて話すことへの苦手意識は強い。「書くこと」についても同様で、自分の想いや考えを文章に表すことに苦手意識を持つ児童も少なくない。

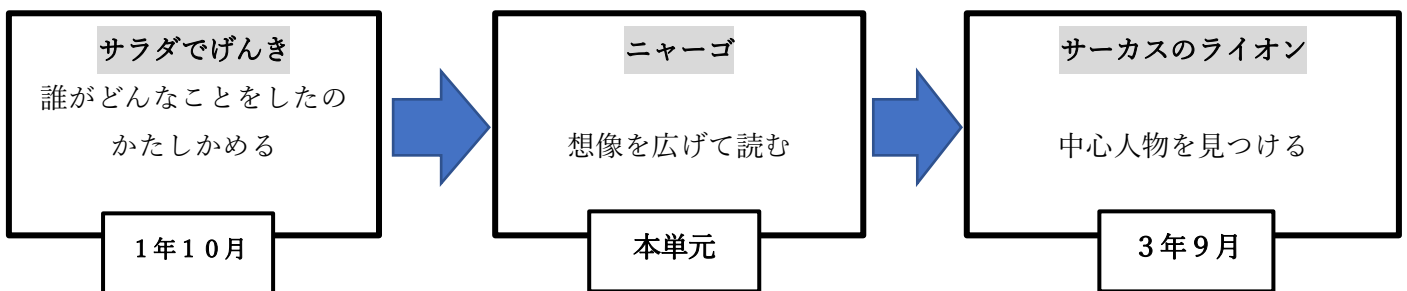
国語科の学習において、登場人物の気持ちや、場面の様子を読み取ることは、1学期の「名前を見てちょうだい」の学習でも取り組んできた。本文を追うだけでなく、登場人物の台詞や様子を動作化し、実際に身体を動かし声を出すことで、具体的に登場人物の気持ちを捉えたり、場面の様子を想像したりすることにつながる活動に、楽しみながら取り組む姿も見られた。ワークシートを使って、自分の考えを書き出したり、ペアやグループの少人数で意見の交流を行ったりした後、全体での交流を行い、少しずつではあるが、発表する児童が増えてきた。

8. 指導観

今回の学習では、場面ごとに変化するねこの「子ねずみたちを食べたい。」と思う気持ちや、その強さを「食ってやるメーター」を使って確認していく。「食べたい」という気持ちに変化する場面では、なぜ、そのような変化が起きたのか、理由を併せて話ができるようにしたい。児童が感じたことや思いだけでなく、全文を通して、気持ちの変化の根拠となる言葉や様子を本文から読み取らせることで、深まり表の中学年、エの1、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について具体的に読み取ることとも関連し、中学年の入り口となる力にもつなげていきたい。

ワークシートを使用することで、場面の移り変わりが捉えやすく、自分の考えを発表したり、書いたりすることに抵抗がある児童でも、文章の量や形にとらわれず、自由に自分の考えを表現しやすくなると考えた。

9. 単元の系統性



10. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに取り組む態度
語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	<ul style="list-style-type: none">・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えている。・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。	<ul style="list-style-type: none">・これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、これまでの学習を生かして、物語の内容の大体を捉え、人物の行動や気持ちを具体的に想像し、想像したことを音読で表そうとしている。

1 1. 指導計画(全12時間)

次	時	学習内容
一次	1	○物語を通読し、感想を書く
	2	○初発の感想を発表し、交流する。
二次	3	○物語の「時」「場所」「登場人物」をおさえ、場面分けを行う。 ・場面絵を手がかりにし、場面分けを行う。
	4	○物語の設定を考える。 ・3びきの子ねずみたちは、どんなことを考えているか考える。
	5	○1つめの「ニャーゴ」に着目し、その時のねこの気持ちを考える。 ・3びきの子ねずみとねこが出会ったときの様子や気持ちを読み取る。
	6	○2つめの「ニャーゴ」に着目し、その時のねこの気持ちを考える。 ・ももを食べに行こうとする時のねこの様子や気持ちを読み取る。 ・「ニャーゴ」とさけんだねこの気持ちを読み取る。
	7	○「ううん。」の気持ちを考える。 ・大きなためいきをついたねこの気持ちを読み取る。
	8 (本時)	○3つめの「ニャーゴ」に着目し、ねこがねずみを食べなかった理由を考える。 ・子ねずみの、ねこへの気持ちに変化していないことを読み取る。 ・「ニャーゴ」と小さい声で言ったねこの気持ちを読み取る。
三次	9~12	登場人物の気持ちをおさえ、音読劇をする

1 2. 本時の目標

- ・ねこの気持ちの変化を読み取る。
- ・登場人物の気持ちを想像したことを基に、音読することができる。

1 3. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準
<p>1. 前時をふりかえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとの様子、気持ちメーターを確認する。 <p>2. 第5場面を一斉読みする。</p>	<p>「食べようとしている気持ち」の強さを確認する。</p>	<p>知・技</p> <p>語のまとまりや、言葉の響きなどに気をつけて音読しているか。</p>
<p>ねこがねずみを食べなかった理由を考えよう。</p>		
<p>3. 子ねずみの様子を読み取る</p> <p>4. ねこの「食べたいメーター」を書き、最後に「ニャーゴ」と言った時のたまの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書き込む。 <p>5. 交流を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア・グループでの交流を行う。 ・全体での交流を行う <p>6. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のふりかえりをする。 ・音読をする 	<p>子ねずみのねこへの気持ちが変わっていないことを押さえる。</p> <p>1回目・2回目の「ニャーゴ」との違いに着目させる。</p> <p>本文から、理由となる言葉や様子を見つけるよう促す。</p>	<p>思・判・表</p> <p>登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えている</p> <p>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。</p> <p>主</p> <p>人物の行動や気持ちを具体的に想像し、想像したことを音読で表そうとしている。</p>

あ と が き

これからの学校教育は、変化が激しく予測困難な時代を踏まえ、子どもたちが変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、情報を見極め再構成し、新たな価値につなげていくことができるようにすることなどが求められます。

今年度から実施されている新学習指導要領では、こうした状況を踏まえ、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育目標」の実現をめざすことが示されました。

新学習指導要領を踏まえ、本校では昨年度より、教科教育研究委員会、外国語・総合教育研究委員会、道徳教育研究委員会、人権教育研究委員会の4委員会に改編し、より新学習指導要領に合うようにして研究を進めています。また研究推進委員会では、コロナ禍の状況下においてもできる限り研究を継続して行けるように話し合いを行い、それを受け各委員会では、研究授業の見学者を分散させたり、多目的室で行ったり、自主的に公開授業を実施するなど、いろいろと工夫をしながら研究を行いました。

本校では、「研究・研修」と、児童への「指導・支援」のどちらにおいても、学校長が学校教育目標で重視しています「チーム桜塚」の体制で行っています。来年度以降も教職員一同努力を続けていきますので、この研究紀要をお読みになられた方は、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せ願います。

一人ひとりの教職員に深く敬意を表し、来年度へと続く道標としてこの研究紀要が貴重なものになることを願っています。

最後になりましたが、本校教育の研究推進のため、ご助言いただいた諸先生方、豊中市教育委員会、また力をお貸しいただいた地域ボランティア、ゲストティーチャーの方々に厚くお礼を申し上げます。

令和3年(2021年)3月 豊中市立桜塚小学校 教頭 山本 清茂

・・・・・・・・・・・・・・・・ 本 校 職 員 ・・・・・・・・・・・・・・・・

原野 裕章	山本 清茂	神寄 有里	武田 有紀	瀬村 ゆり	池永 麻希	笹部 沙織
本田 美恵	佐々木美菜	吉川 由莉	西川 俊子	池田はるか	西村 政幸	下山 通広
勝部 彩菜	松田 渉	赤松 芙美	丹下 大輔	樋口 慎	杉田 瑞季	中井 拓也
高柳 晴美	小谷久美子	山本みさき	奥田 なな	上岡 万祐子	田口 理絵	辻本 加奈
松尾 法子	行 裕子	好光 栄智	前田 昌彦	沖田 千夏	上佐 洋子	土井 弘行
渡邊 洋祐	上梶 貴恵	川岸 浩子	大谷 史子	上垣内洋子	向井なぎさ	吉田三由記
江村 和佳	田中紗耶加	福井 雅美	室 浩美	森 真由美	吉開 茂司	樫根 邦夫